

おうみ未来塾
第10期生

“Local Futurability”

地域の未来可能性を求めて



第十期生 卒塾の言葉

地域の課題解決に取り組む「地域プロデューサー」を目指して、学んでまいりましたが、はや二年が経過し、ここに卒塾を迎えることとなりました。その間、現場における市民活動などを学んだことや、発表会では運営委員の先生から、ご指導や励ましのお言葉をいただき、活動を続けてまいりましたこと、さらには、塾生グループ活動において、自ら企画した事業を実践できたことが、今後の活動展開への自信となることと確信いたしております。

また、期間中に塾長の日高先生や塾生の福本様が志半ばで鬼籍に入られ、一緒に卒塾式に臨むことができなかったことは、非常に残念であります。

この卒塾式に臨む私たちは、卒塾後も初心を忘れることなく、地域プロデューサーとしての役割を果たせるよう、協力・補完しあってグループ活動を継続して参りたいと存じます。

最後に、本日ご臨席賜りました理事長、塾長、運営委員の先生、事務局の皆様、卒塾生の先輩の皆様、さらには塾の運営にご協力いただきました皆様、心から感謝申し上げますとともに、ご健勝とますますのご発展をお祈り申し上げて、卒塾の言葉とさせていただきます。ありがとうございます。

平成二十二年三月七日

おうみ未来塾第十期卒塾生一同



“Local Futurability”

地域の未来可能性を求めて

目次

塾長・運営委員からのメッセージ……………	1
2年間のあゆみ……………	5
各グループ活動……………	15
・元気な農家をつくり隊……………	17
・おうみこっとな夢つむぎ……………	27
・「仕事人と語ろう！」グループ……………	37
・大津まちなかもりあげ隊……………	47
個人からのメッセージ……………	57
スタッフからのメッセージ……………	81
本書表紙について……………	86
編集後記……………	87

塾長・運営委員からのメッセージ



おうみ未来塾 塾長
北村 裕明
(滋賀大学教授)

地域プロデューサーが育つ地域へ

「地域プロデューサーが『育つ』塾」、おうみ未来塾の目的をこのように明快に示してくれたのは、故日高敏隆前塾長でした。11年前に私たちは、21世紀社会を迎えるにあたって、地域の問題を発見し、解決の方策を考え、それを実践する能力と意思を持った「地域プロデューサー」の存在が重要であり、その養成のためのカリキュラムを考え、おうみ未来塾を発足させました。

しかし、地域プロデューサーを育てるのではなく、地域プロデューサーが育つ環境をつくり出すことが大切であることを、日高前塾長は絶えず強調されたのでした。教えるということの本質は、それぞれの個人にある潜在的な力を発揮させることです。とりわけ、社会的目的を明確にしながら、学習し続ける場を提供しようとする未来塾にとって、育つ環境をつくり出すという視点は決定的に重要でした。10期生の皆さんを送り出すことができた現在、そのことを痛感しています。11年間にわたる塾活動を経て、絶えず現場から学ぶこと、グループでミッションを共有しあうこと、地域に入ること、政策を考えるだけでなく実践すること等、地域プロデューサーが育つ環境づくりの柱が見えてきました。

10期生までの経験を基礎に、未来塾が地域プロデューサーが育つ塾としての機能を高めてゆきたいと思います。そして、おうみという地域が、地域プロデューサーが続々と育つ地域にすることが、次の課題だといえましょう。10期生の皆さんには、自ら地域プロデューサーとして地域で活躍されるとともに、地域プロデューサーの育つ地域へ向けての環境づくりにも協力いただきたいと思います。



おうみ未来塾運営委員
岡崎 昌之
(法政大学教授)

「地域の過去から 構想する地域づくり」

3月初旬、宮崎県西米良村を訪れた。宮崎県中部に位置し、熊本県球磨地方に隣接する山間部の真っ只中にある。ちょうどエドヒガンザクラが険しい山肌にポツポツと咲き始め、ひときわ濃いピンクのイワツツジが真っ盛りの季節だった。西米良村は明治22年の市制町村制施行以来、市町村合併はせず、ずっと単独で村を守ってきた。現在の人口は1,300人。平成9年、全国に先駆けてワーキングホリデー制度を取り入れ、交流人口の拡大につとめ、Iターン者も増えている。中核施設の西米良温泉もユニークだ。3セク「米良の庄」が経営し、村内の高齢者や若者が風呂掃除に自主的に参加する。ちょうど当日は、バリアフリー化の改装が完成し、町民に無料で解放され、賑わっていた。村のおばあちゃんたちが、生涯現役の意気込みで、食事や特産品を販売する川の駅「百菜屋」も生き生きとしている。新しい取組みが小川地区で始まった「平成の桃源郷・おがわ作小屋村」だ。狭い山道（しかし国道、黒木村長いわく「酷」道）を約10キロ進むと、忽然と開け、集落が現れる。ここが小川地区で、室町から江戸時代にかけて領主菊池氏が拠点とした一帯である。菊池公は大政奉還時、所有していた領地を均等に領民に分け与えた。自分の土地を持つことになった領民は、開墾に励み、自宅から離れた場所には、農作業小屋として作小屋を作った。やがてはこれが隠居屋となるなど、独特の生活形態が築かれた。これを現代に再現したのが「おがわ作小屋村」で、農家レストランや特産品の売店も兼ねている。400年に渡った菊池氏の統治は、この山中にありながら、村民子弟全てを藩校、弘文館に通わせ、「貧しさに耐えながらも文武を怠らず、礼節を重んじ、国家社会に尽くす」の教えを残し、現在もその“菊池精神”は村内に息づいている。平成17年には台風14号で甚大な被害を受けたが、こうした困難に直面したとき、また新しいことに取り組むとき、常に立ち返るのは現在でもこの“菊池精神”だという。将来を構想するとき、地域の過去に立ち返ることが、地域づくりの基本だということを教えてくれる。



おうみ未来塾
運営委員
岸田 真代
(NPO法人
パートナーシップ・
サポートセンター
代表理事)

「時代と社会に 真摯に向き合って」

(おうみ未来塾
10期生卒塾おめでとう)

10期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。2年間の塾生としての活動はいかがでしたでしょうか？

「あ～面白かった」なののでしょうか、それとも「あ～疲れた」なののでしょうか。「もっとやればよかった」なのか、「これからやるぞ」なのか～きっとそれぞれの思いが渦巻いていることでしょう。

10期という節目の時期に、おうみ未来塾生として入塾されたみなさんにとって、日高塾長という塾のシンボルを失うという大きな節目にも遭遇されました。

でも、それをきっかけに、おうみ未来塾という、人生にとってかけがえのない2年をともに過ごされたことの意味を、さらに深くされたのではないかと想像しています。

私たち運営委員にとっても、おうみ未来塾という、全国に誇れるこのしくみを、どのようにつなげていくのかを真剣に考え議論した年でもありました。

みなさんも、この塾をきっかけに、新たな旅立ちを決意された方もいらっしゃることでしょう。仲間を得、時代を知り、地域に入り、明日を考えるというこの豊かな経験の中で、きっとどこかに変化がおきているはずです。大きく変わった人も、小さな変化でしかなかった人も、何も変わらなかった、とたとえ今は思っている人でさえも、必ずどこかでこの体験が生きてくるときが来るはずです。

私たちは、それを信じています。そして期待しています。

これからは同じ時代を歩む者として、社会に関わり地域を見つめ、そこに真摯に向き合って自分のもてる力を存分に発揮していきましょう。それが、この「地域プロデューサー」を目指す塾の真骨頂でもあります。

今度お会いするときはどんなたくましい姿をみせてくださるのか、楽しみにしています。



おうみ未来塾運営委員
澤 孝彦
(おうみ未来塾1期生)

「積み重ねを大切にしつつ、 楽しみながら活動を していきましょう!!」

10期生の皆さん、卒業おめでとうございます。

2年間のおうみ未来塾は終わりましたね。いかがでしたか？仲間と楽しく学ぶことができましたか？

どのような活動でもまずは自分が楽しむことができるかどうか大切です。グループ活動でもまずグループメンバーがそれぞれ楽しみながらやってきたかが、そのグループの成果につながっていったと思っています。

グループ活動は期間も限られているので、ある一定の成果を出すことはたいへんエネルギーが必要であります。発表していただいた4つのグループともそれぞれなりに活動目的に向かって汗を流された状況はよく伝わりました。ただ、発表会までに何かしらの成果を出さなければならないと少し焦られたグループもあったように見えました。

地域づくりはあくまで一つ一つの積み重ねであります。地域づくりの目的、目標に向かってどのように考え、話し合い、行動したかというそのプロセスが充実していれば、必然と成果につながり、多くのことを語らなくてもみんなにもわかり、それが地域に波及していくとも思います。

日高先生の「シンク・グローバリ、アクト・ローカリー」に対しての「シンク・ローカリー、アクト・ローカリー」の考え方と一緒にしたいと思います。心あわせる仲間とともに地域で徹底してやると、それが実績に結びつき、地域の人々の輪も広がっていきます。

10期生のみなさんを入れて、おうみ未来塾の卒業生は237名になりました。多くのみなさんとのつながり、またおうみ未来塾の輪を広げていただきたいと思います。健康には一番気をつけられて、更なるご活躍を心からお祈りしています。



おうみ未来塾運営委員
藤井 絢子
(NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク代表)

卒業式は「はじまり宣言」

卒業おめでとうございます。

成果発表会での皆さんの言葉の力と表情に、二年間の積み重ねの自信と、まだやり残しているな、という両方の思いを見る事が出来ました。私自身も運営委員として、つかず離れず共に歩んで来て、子供達の育ち具合はどうかしら、と親のような気持ちでもありました。

元気な農家をつくり隊・おうみこっとな夢つむぎ・仕事人と語ろう・大津まちなかもりあげ隊、いずれも、この2年で実践のロードマップの入口に立ったところで、ようやく感触をつかんだあたりでしょうか。

いよいよ地域プロデューサーの腕を発揮する場面になってきます。その為には、分野を超え、セクターを越えた出来るだけ多くの人たちとの関係のきり結びが必要です。このプロセスが実に楽しい、わくわくしてくる、となる時が必ず来ます。勿論、かなりの学びも必要です。日高塾長の9期生入塾式の記念講演のテーマは「人と地域の未来可能性を拓く」でした。それにつけ加え、塾長は、継続のカタチを「ムーブメント」とおっしゃいました。ムーブメントではなく、ムーブメントとこだわりを言葉へのこだわりをもって。

力強いムーブメントに持っていくことで、ホンマモンになる、と。地域プロデューサーの出番です。私は講評の中で、卒業式は「はじまり宣言」と申し上げました。そう、今から未来塾の学びと実践と人財産をベースに「はじまり宣言」をし、元気に育ってほしい、と熱いエールを送ります。

2年間のあゆみ

おうみ未来塾第10期生 2年間のあゆみ

(1) メイン講義の経過

- 入塾式 ◇日 時：2008年6月15日（日）13:00～17:30
◇場 所：ピアザ淡海207会議室
◇内 容：入塾式典
開講記念講義「10年 新未来」 講師：日高敏隆 塾長
運営委員訓話「おうみ未来塾 2年間のはじめに」
講師：北村裕明 運営委員長（滋賀大学教授）



- 第1講 テーマ「地域を見渡す力」
◇日 時：2008年7月12日（土）9:30～16:30
◇場 所：大門坂荘（米原市大久保）
◇内 容：講義「地域を見渡す力と、見渡す人」
講師：岡崎昌之 運営委員（法政大学教授）
講義「伊吹の源流を考える会の活動について」
講師：谷口隆一さん（伊吹の源流を考える会 代表）



■第2講

テーマ「まちづくりとプロデューサー」

◇日時：2008年8月2日(土) 9:45~16:30

◇場所：【講義】マルチメディアセンター(近江八幡市出町)、ファミリーサポートセンター近江八幡(同市永原町)

【フィールドワーク】近江八幡市街地内のまちづくり活動の各拠点施設(白雲館、旧八幡郵便局、酒游館)

◇内容：講義「地域プロデューサーの時代」

講師：北村裕明 運営委員長(滋賀大学教授)

講義「しみんふくし滋賀について」

講師：成瀬和子さん(NPO法人しみんふくし滋賀 常務理事)

講義「地域情報をデザインする」

講師：藤田知丈さん(マルチメディアセンター所長、本塾第7期生)

フィールドワーク訪問・取材先

白雲館 : 木ノ切英雄さん(おやじ連、ハートランド推進財団)

旧八幡郵便局 : 伴政憲さん(ウォリス 建築保存再生運動一粒の会)

酒游館 : 西村恵美子さん(八幡堀を守る会)



■第3講

テーマ「『地域に入る』ということ」 【合宿講義】

◇日時：2008年8月30日(土)~31日(日)

◇場所：くつきの森やまね館(高島市朽木麻生)、山村都市交流館「山帰来」(同市朽木中牧)

◇内容：講義「『地域に入る』ということ」

講師：山本利幸さん(NPO法人 朽木針畑山人協会)

講義「朽木暮し11年~ゲンカイ集落での生活、子育て、付合い体験談~」

講師：加藤みゆきさん(ペンネーム：オノミユキさん・高島森林体験学校)

コーディネーター：澤孝彦 運営委員(セブンドロップス 代表、本塾第1期生)



- 第4講 テーマ「地域の多様なネットワーク」
- ◇日時：2008年10月11日（土）
- ◇場所：【講義】あいうエコプラザ菜の花館ほか
【FW】織山（きぬがさやま・東近江市）
- ◇内容：講義「地域の多様なネットワーク～菜の花プロジェクトの展開～」
講師：藤井絢子 運営委員（滋賀県環境生活協同組合理事長）
講義「愛のまちエコ倶楽部の活動について」
講師：平尾由里子さん（NPO 法人愛のまちエコ倶楽部）
FW「『びわ湖の森健康診断キキダス』について」
講師：キキダス実行委員会事務局
山口美知子さん（滋賀県東近江振興局森林整備課）ほか



- 第5講 テーマ「地域の課題を知る～外国籍市民と共に生きる」
- ◇日時：2008年11月24日（祝）
- ◇場所：自主活動センター「きずな」（甲賀市）ほか
ブラジル民族料理「シュラスコ」体験（食べ放題）＆ブラジル雑貨店見学
- ◇内容：講義「甲賀市における外国籍市民の現状と課題について」
講師：大河原佳子さん（甲賀市国際交流協会事務局長・本塾第7期生）
ワークショップ「ブラジルボックスから多文化共生を考える」
講師：川瀬美智子さん（国際教育研究会 Glocal net Shiga・本塾第1期生）
ブラジル民族料理「シュラスコ」体験（食べ放題）＆ブラジル雑貨店見学
外国籍市民の方々とフリートーク



■第6講

テーマ 9・10期合同講義「プレゼン技法を学ぶ」

◇日時：2008年12月20日（日）

◇場所：ピアザ淡海

◇内容：講義：「伝わるプレゼンをつくるポイント」

講師：芝原浩美さん（NPO法人ユースビジョン理事・事務局長）
9期10期合同忘年会



■第7講

テーマ「リーダーシップと合意形成」

◇日時：2009年2月7日（土）

◇場所：ピアザ淡海

◇内容：講義：「リーダーシップと合意形成」

講師：岸田眞代 運営委員（NPO法人パートナーシップ・センター代表理事）
ワークショップを通じて自己を学ぶ



■中間発表会 おうみ未来塾活動発表会

◇日時：2008年9月23日（祝）

◇場所：ピアザ淡海

◇内容：第9期生 グループ研究活動の中間発表

第10期生 活動経過報告

ディスカッション「おうみ未来塾とは」



■10周年記念 大交流会

◇日 時：2009年1月17日（土）

◇場 所：栗東芸術文化会館 さきら

◇内 容：おうみ未来塾 10周年記念大交流会

テーマ 地域に生きる人々とともに ～学びと実践～



■成果発表会 おうみ未来塾 成果発表会・卒塾式

◇日 時：2009年3月7日（日）

◇場 所：ピアザ淡海 3階 大会議室

◇内 容： 9期生 塾活動成果発表会

10期生 活動経過報告



■中間発表会 おうみ未来塾活動発表会

◇日 時：2009年10月10日（土）

◇場 所：コラボしが21 3階 大会議室A・B

◇内 容：おうみ未来塾の卒塾生事例発表、10期生のグループ活動発表



■成果発表会 おうみ未来塾 成果発表会・卒塾式

◇日 時：2010年3月7日（日）

◇場 所：ピアザ淡海 3階 大会議室

◇内 容：10期生 成果発表会



■ 日高先生お別れ会

卒塾式の後、昨年 11 月に逝去された日高前塾長の足跡をたどるビデオを流して、先生の講演を一部朗読した後、先生の思い出を運営委員と卒塾生代表 10 人が語った。



(2) 塾生会の経過

全塾生で構成する全体塾生会を月 1 回程度開催して、塾運営について協議を行った。また、居住地域によって「湖西」「大津・草津」「湖南・八幡」「湖東・湖北」の 4 つの地域会に分かれ、地域会が、輪番で全体塾生会への提案事項の検討や進行などを務めた。

- 【第 1 回塾生会】 ◇日 時：2008年7月12日（土）
◇場 所：大門坂荘
◇内 容：塾生会の運営方法、地域会のメンバー割りについて
- 【第 2 回塾生会】 ◇日 時：2008年8月2日（土）
◇場 所：ファミリーサポートセンター近江八幡
◇内 容：合宿講義における塾生企画の検討
- 【第 3 回塾生会】 ◇日 時：2008年8月30日（土）
◇場 所：くつきの森やまね館
◇内 容：活動発表会の発表内容・方法の検討
- 【第 4 回塾生会】 ◇日 時：2008年9月23日（祝）
◇場 所：ピアザ淡海207会議室
◇内 容：活動発表会について
- 【第 5 回塾生会】 ◇日 時：2008年10月11日（土）
◇場 所：あいとうエコプラザ菜の花館
◇内 容：サブ講義の開催について、今後の塾生会について
- 【第 6 回塾生会】 ◇日 時：2008年11月24日（祝）
◇場 所：自主活動センター「きずな」
◇内 容：本講義について

- 【第7回塾生会】 ◇日 時：2008年12月20日（土）
◇場 所：ピアザ淡海207会議室
◇内 容：おうみ未来塾10周年記念大交流会について、本講義について
- 【第8回塾生会】 ◇日 時：2009年1月24日（土）
◇場 所：草津市立まちづくりセンター
◇内 容：本講義について、グループ分けについて
- 【第9回塾生会】 ◇日 時：2009年2月7日（土）
◇場 所：ピアザ淡海203会議室、ネットワークセンター
◇内 容：2008年活動の振り返り、グループ分けについて
- 【臨時塾生会】 ◇日 時：2009年2月19日（木）
◇場 所：ふらっとルーム
◇内 容：欠席者フォローミーティング
- 【第10回塾生会】 ◇日 時：2009年2月21日（土）
◇場 所：ピアザ淡海304会議室
◇内 容：グループ分けについて、塾生会について
- 【第11回塾生会】 ◇日 時：2009年3月7日（土）
◇場 所：ピアザ淡海202会議室
◇内 容：グループ分けについて
- 【第12回塾生会】 ◇日 時：2009年3月20日（祝）
◇場 所：ピアザ淡海206会議室
◇内 容：グループ分け最終調整、グループ活動について
- 【第13回塾生会】 ◇日 時：2009年5月7日（土）
◇場 所：ピアザ淡海204会議室
◇内 容：運営委員指導会「グループ活動」発表練習、塾生会について
- 【第14回塾生会】 ◇日 時：2009年7月18日（土）
◇場 所：どっぼ村（湖北町）拠点施設
◇内 容：グループ活動について
- 【第15回塾生会】 ◇日 時：2009年9月12日（土）
◇場 所：彦根市、豊郷町雨降野
◇内 容：元気な農家をつくり隊現場視察、グループ活動について
- 【第16回塾生会】 ◇日 時：2009年11月14日（土）
◇場 所：彦根市本庄町 みずほの郷
◇内 容：グループ活動について
- 【第17回塾生会】 ◇日 時：2010年1月23日（土）
◇場 所：大津市長等2丁目 まちなか交流館
◇内 容：グループ活動について

※上記の全体塾生会のほか、合宿準備・中間発表会準備・全体塾生会準備などのために、4つの地域会が各地で会合を行った。

(3) サブ講義の経過

塾生が企画したサブ講義を随時行った。

■ 「エクスカーショ in 高島」プロデュース：湖西地域会

- ◇日 時：2008年8月31日（日）
- ◇場 所：高島市新旭町針江、高島市安曇川町
- ◇内 容：針江生水の郷（「かばた」の文化）見学、
「近江聖人」中江藤樹関連施設の見学

■ 「まちづくりの担い手に聴く」プロデュース：湖東・湖北地域会

- ◇日 時：2008年11月30日（土）
- ◇場 所：彦根市「花しょうぶ通り商店街」彦根勤労福祉会館
- ◇内 容：花しょうぶ通り商店街を歩く
戦国時代をテーマに町おこしを図る花しょうぶ通り商店街を自由散策
講義&フリートーク：まちづくりの担い手に聴く
迫間勇人さん（NPO法人五環生活・本塾第9期生）
団 朋希さん（NPO法人小江戸彦根（彦根城お堀めぐり屋形舟））

■ 「まちづくりの現状と創造」プロデュース：大津・草津地域会、湖西地域会

- ◇日 時：2009年2月28日（土）
- ◇場 所：大津なかまち商店街
- ◇内 容：「まちなか交流館」の高峯さんの案内のもとに 大津市の中心市街の
現状を観察

■ 「市民事業について」

- ◇日 時：2009年7月18日（土）
- ◇場 所：大戸洞舎（湖北町）
- ◇内 容：講義：NPOにおける市民事業とは～なぜ事業化するのか～
講師：大室悦賀プロジェクトマネージャー
：NPO法人の設立について 助成金の情報について
：淡海ネットワークセンター事務局 遠藤さん、臆吹さん
FW：どっほ村見学

■ 「ようこそ先輩」

- ◇日 時：2009年12月12日（土）
- ◇場 所：ピアザ淡海302会議室
- ◇内 容：ゲスト卒塾生による現状活動報告と体験・成果等の聞き取りおよび
意見交換会
ゲスト卒塾生
：松田達也さん（本塾第4期生・地域家族研究チーム）
：河本正信さん（本塾第8期生・里山コミュニティ夢織チーム）
：広実照美さん（本塾第1期生・セブンドロップスチーム）

■ 「大津中心市街地視察」プロデュース：大津まちなかもりあげ隊

- ◇日 時：2010年1月23日（土）
- ◇場 所：大津市商店街、まちなか交流館
- ◇内 容：「大津まちなかウォーキングマップ」をもとに 大津市中心市街地を
視察、お店や観光施設を訪問してお話を聞きながらウォーキング

(4) 世話人会の経過

各グループ1名が世話人となり、塾生会および発表会の運営方法等について連絡調整を行った。
(2ヶ月に1回開催)

元気な農家をつくり隊

おひめこっこん夢つむぎ

「仕事人と語るうー」グループ

大津まちなかもりあげ隊

各グループ活動

グループ活動拠点マップ

(市町名は入塾 (2008 年春) 時点のもの)



元気な農家をつくり隊活動報告

活動テーマ

[小規模農家の自立経営]

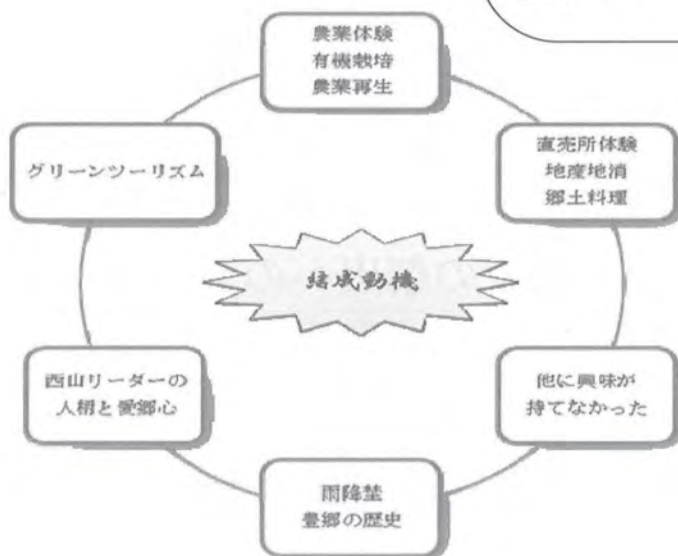
グループ名

[元気な農家をつくり隊]

活動メンバー

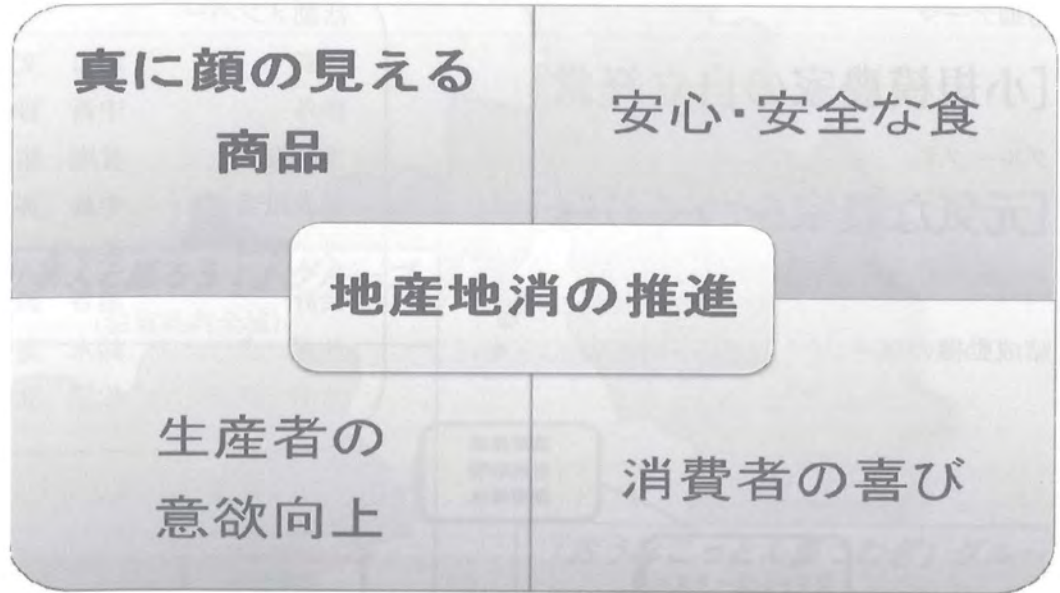
代表	西山 文隆
渉外	中西 雅幸
世話役	甘庶 裕之
発表担当	中島 英喜
ライター	佐々木 誠樹
会計	浦谷 誠人
サポーター	鈴木 道弘
サポーター	松原 弘保

結成動機の様子

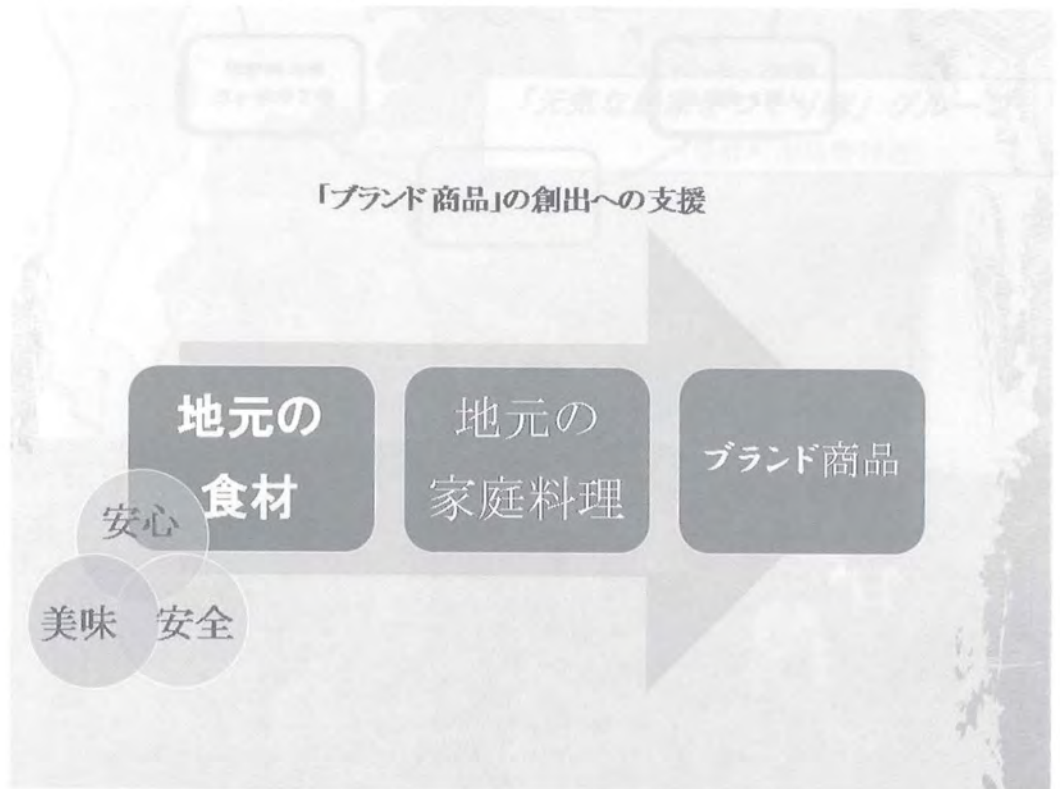


グループ活動の目的

農産物の「自主生産&販売」への支援



「ブランド商品」の創出への支援



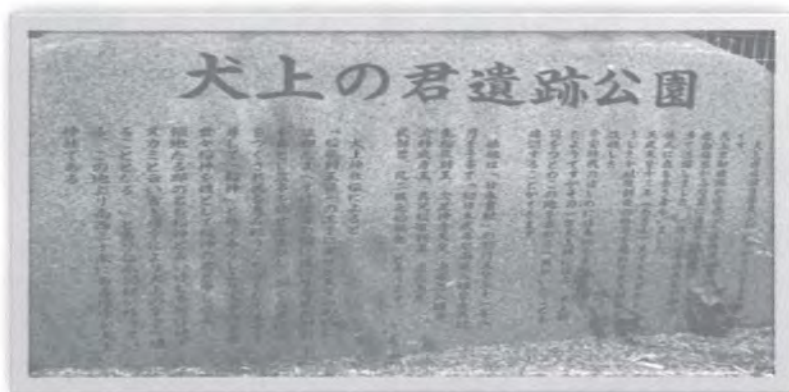
活動場所の紹介

「あめふりの」

近江湖東平野東部の「雨降野」は、古代犬上川の度重なる氾濫堆積物によつて出来た荒地でした。楯林を先人達が拓いて農耕を始めましたので、当時は「楯邑」と呼ばれていました。扇状地であるため、水持ちが悪くたびたび旱魃に悩まされた。

そこで「百濟寺」と呼ばれるお寺のお坊さんと呼んで、雨乞いの儀式を行いました。すると雨が降り出し、農地が潤ったと言う出来事から、「楯邑」から「雨降野」と言う地名に変わったとされています。

「雨降野史より一部抜粋」



現在は「犬上郡豊郷町雨降野」5集落の一つで、近隣には歴史的遺産が沢山残っています



元気な農家をつくり隊

農の営みの形態は変われども脈々と受け継がれてきた家族経営の農業形態は、農の国・日本の縮図ともいえる地域といえます。

当地域は全戸90戸、そのうち農業・営農組合員が70会員で集落のほとんどが農業関係者です。

しかし純農村であった当集落も、この50数年の間に大きく変わった。当時、小川では泥鰌や鮒が住み、集落至る所で蛸が飛び交っていたし、若い衆達が威勢よく神輿をかつぐ村祭りも賑やかだった。昭和52年より土地改良事業が始まり、田圃整備と農業機械の導入により、飛躍的に生産効率が上がったが、反面 農村の景観が一変し一家の大黒柱は確かな収入を得るため、他の仕事に就いて、農業は「三ちゃん」（じいちゃん ばあちゃん 母ちゃん）に委ねられ、農家の大半が兼業農家から第2種兼業農家（農家以外の仕事為主で、休日に農業を行う）となった。

やがて子供たちはこの地を離れ、農業の担い手がいなくなり、集落は高齢者が多く住み、子や孫は盆や正月に帰省する状況になった。この集落も、「準限界集落」に向かっているのではないかと危惧される。今一度、集落のあり方を考えなければ、取り返しが見つからないことになりはしないだろうか。

行政と集落住民も昔の元気を取り戻そうと様々な取り組みをしているが、高齢化が進行する現状では、課題解決の出口が見えない状況である。

地域の課題

**小規模農家が多く
農業経営だけでは生活が出来ない**

農家経営に魅力がない

**高収入を求めて
他地域他業種に労働力が流出する**

産業・特産物・観光等の労働資源がない

**労働力流出により住民の高齢化が進み、
街に活気が無くなった**

空き家が多くなり街が空洞化してきた

グループの活動報告

活動実績

行政・地域団体・企業との連携

豊郷町への支援願い

直売所テント及び販売助成物の貸与及び補助支援を獲得する

農産物生産の農業ハウスの補助支援を獲得する

滋賀県立大学へは「地産地消の農産物学内使用」と

「学生の活動」支援願い

学生のグループ活動「一姓」と連携、して

大学校内で農産物販売を行う

豊郷町内の直売所グループとの連携

町内の4つのグループと協調を図るため

「直売所組合」の立上げ調整を行う

彦根NPO活動「彦根ねば」に参加する

直売所出展で農産物の販売、と

他のグループ連携が出来た

豊郷町 “直売所支援で地域に活力”



滋賀県立大学 “学生研究グループ「一姓」と連携



元気な農家をつくり隊

「直売所」関係の支援活動

地元直売所「あめふりのふれあい市」の運営支援

販売展示台の製作と

販売助成物(バーコード・配布チラシ)の作成

直売所の販売間口の拡大支援

1、大津商店街のフリーマーケットに参加して、
販売の獲得と「あめふりの」地名PR

3回出展で終了

2、彦根城バス駐車場「あめふりの直売所」の開設で
販売獲得と「あめふりの」地名PR

8月～9月の出展で終了

「あめふりの直売所ふれあい市」 販売助成物<展示台>作成



元気な農家をつくり隊

地元直売所 「あめふりのふれあい市」の運営支援



○日曜大工ですが素敵な展示台が出来ました



あめふりの 直売所
彦根護国神社



あめふりの 直売所
大津商店街

元気な農家をつくり隊

農業体験

- ・ 場所……6月中旬、麦を収穫した圃場 <3反;30m×100m>
- ・ 作物……キュウリ、ナス、ピーマン、シシトウ、オクラ、トウモロコシ
スイカ、マクワ、カボチャ、サツマイモ、黒豆、大豆、小豆等
- ・ 作業内容…畝作り、種まき;苗植、水やり、追肥、除草、収穫、選別、整地
- ・ 作業日数…グループ;8日、その他;個人
- ・ 成果……農作業経験面では、家庭菜園レベルの会員が多く、農家の苦労が体感できた。また、収穫の喜びも味わえた。
- ・ 課題……農作業は、半年から1年という長い期間で行われるのだが、最後まで全員で活動できなかった。
特に、除草や収穫後の選別等は地元任せ切りになってしまった。

<グリーンツーリズム>グループ会員農業体験



「あめふりのふれあい市」会員の勉強会

直売所会員さんと
先進直売所の視察勉強会を実施

直売所会員さんの月例総会で
直売所運営についての勉強会を実施

参加者は一人一品
「地元食材使用家庭料理」持参、特産品選出の
推進をしました

直売所会員、さんと
先進直売所の視察勉強会を実施



直売所会員さんの月例総会、で
直売所運営についての勉強会を実施

郷土料理持参



経営勉強会



行政より補助支援；農業ハウス

- ① 導入目的・・・安定供給 <常に販売するものがある。>
 時期はずれ<促成栽培>
 特産品開発<他地域で生産されてない作物>
- ② 予算と補助金・・・569,704円<償還；9年、町の補助率；3分の2>
- ③ 規模・・・・・・・・・・7,7m×25m=187,5㎡
- ④ 本年度の活動・・・特産品を目指す20品目の苗の栽培と会員への提供



行政より補助支援；バーコードの導入

- ① 導入の目的・・・・・・・・出荷数が多い場合、手書きでは手間がかかる。
 データー管理上、有効。
 販売時の計算に手間取る。
 販売数、返品数、売上高等の間違いを防ぐ。
- ② ソフトの開発・・・・・・・・中西さん
- ③ 諸経費・・・・・・・・・・バーコードリーダー<1万円>
 ノートパソコン<中古品；1,5万円>
 プリンターラベル用紙



活動の成果

—地域が甦る—

グループ活動（隊員）は“一過性の風”
地元の住民は“土”の

関係にあると思います

長い年月をかけてこの地に出来た風土（暮らしと文化）は、この土地に暮らす住民“土”では見えない所があり、なかなか風土改革は出来ない。

しかし外者である“一過性の風”により別の文化と知識が持ち込まれて、「新たな文化」が出来ると思います。

短時間の活動では結果は残せなかったが、この活動が変革の“キッカケ”と成ればと切望いたします。

グループ活動としての課題

1、地域に入ること

土着の文化と生活環境に「よそ者」が入り込むのは、余程の覚悟と情熱が必要である。日本の農家の大半は、温厚でお人よしの所が見られる。が、漁民と違うのは、1年というスパンで生活するスタイルがもたらせる評価基準だと思われる。

つまり、短絡的な活動では評価しないのが農村スタイルだと思われる。その意味で、我々は地域には入れたのだろうか。

2、目標への達成度

グループ活動では、到達目標を掲げるが、目標の何割まで達成できたのだろうか。「農家を元気にする」のが目的であるが、そのために、何ができたのだろうか。直売所活動への支援という側面では、一定の成果が挙げられたと思われるが、農家及び農村の振興に関し一面的な提言になってはいないだろうか。

3、波及効果

活動が始まってから、新たなグループ活動が始まった。「雨降野の農業を考える会」、「幼児会」の立ち上げである。集落の閉塞状況を何とか打開したいとの思いが垣間見られる。これは予期せぬ収穫のように思われる。

おうみこっとな夢つむぎ

テーマ

『綿づくり』を通して『人の輪』をひろげよう

グループ紹介

彦根市下岡部町を拠点として活動を展開しています。地元の方々や作業所の皆さんと協力して、休耕地に綿を栽培し、出来上がった綿から糸をつむぎ、手づくり作家の協力も得て、商品が出来上がりました。こうした活動を通じて、地域振興、障がい者の働く場の提供、ものづくり教育を進めてきました。

今後、一般会員を加え活動を拡大・継続していきます。

メンバー

澤とし江 池田佳子 芝浩市 藤野さち子 市川詠一 北川久和



おみこっとなつむぎ活動報告

1. 活動計画

- ◆ 活動テーマ：『綿づくり』を通して『人の輪』を広げよう
- ◆ 活動中心地：彦根市下岡部町
- ◆ メンバー

代表	澤 とし江
会計	池田 佳子
世話役	芝 浩市
報告書編集委員	北川 久和
発表会担当	藤野 さち子
渉外	市川 詠一



◆ スケジュール



2. 課題・背景

◆ 休耕農地の増加

彦根市下岡部地区では他の地域同様住民の高齢化とともに休耕地が増加している。

◆ 伝統技術・技能の散逸

綿から糸をつむぎ、糸を織って布にする、かつては家内手工業として存在した伝統技術・技能が、大量生産・大量消費の時代の波の前に散逸してしまった。

◆ 農産物に対する消費者の安全志向

食料品のみならず、衣料品に対してもその生産・製造過程で農薬や化学薬品を使わない「安全性」のニーズが高まってきた。

◆ 福祉施設・作業所の「仕事」

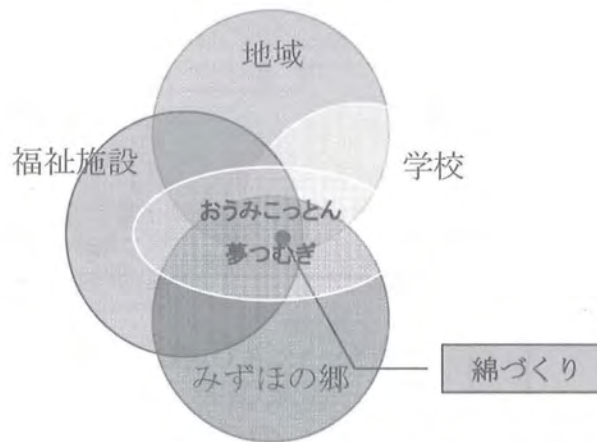
障がいをもつ人たちが安定的に収入を得る仕事が少ない。

◆ 「みずほの郷」田舎体験活動の進展

3年前から綿づくり、機織り機復元など進めてきたが、実現のめどが立ってきた。

3. ビジョンとコンセプト

- ◆ 「手」づくり
むやみな機械化や「量」の拡大を追求しない
- ◆ 「場」づくり
仕事の間、気づきの場を提供する
- ◆ 「人」づくり
グループ活動が終わっても継続できる事業をめざす
そのための人材を育成する

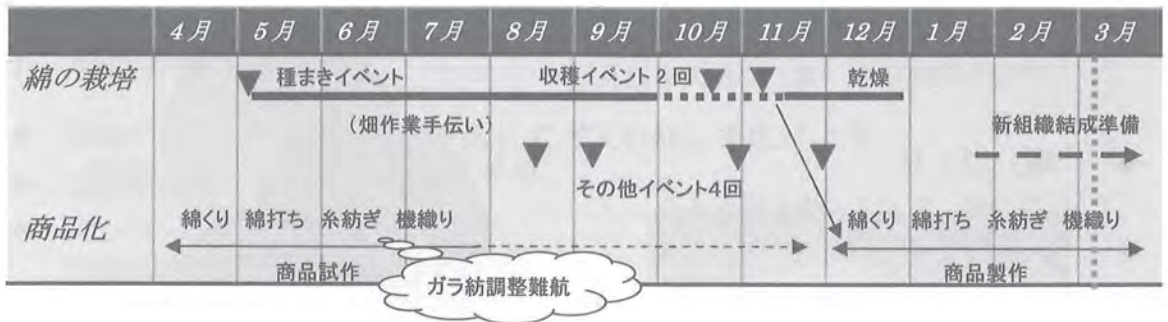


4. 到達目標主な活動実績

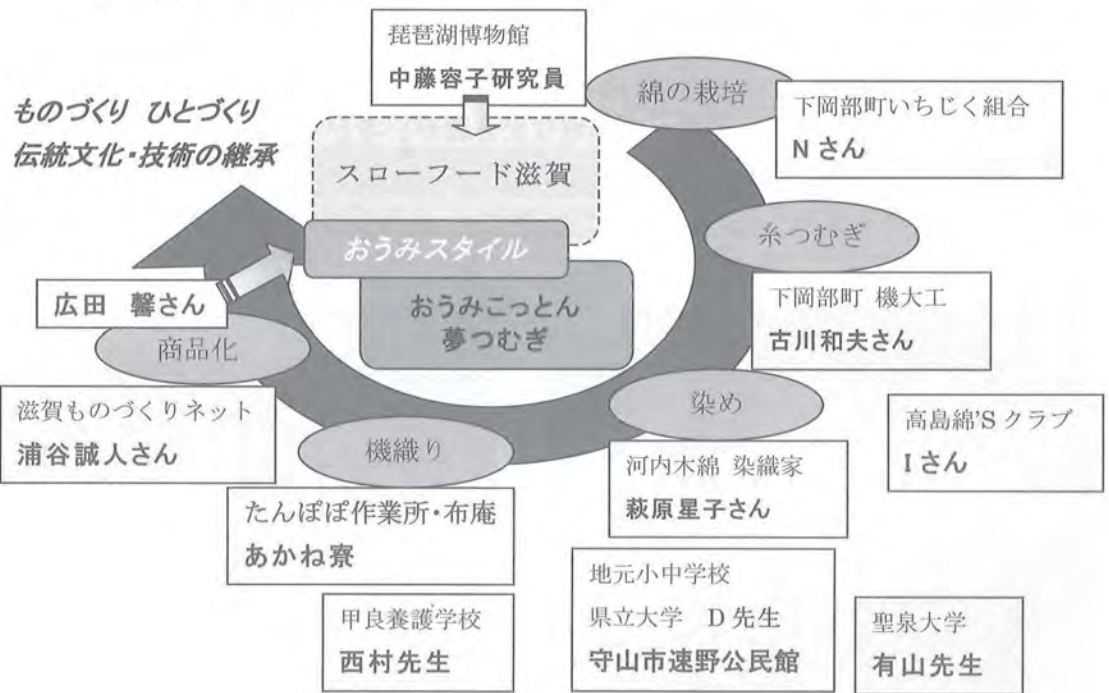
- ✓ 地域および福祉施設と協業し、地域住民と障がい者が主体となって運営する綿栽培～糸・布の商品化・販売までのビジネスサイクルを確立する
- ✓ それを主導する NPO 設立の基礎作りを行い、「みずほの郷」に継承する



5. スケジュール実績



6. 「人の輪」の広がり



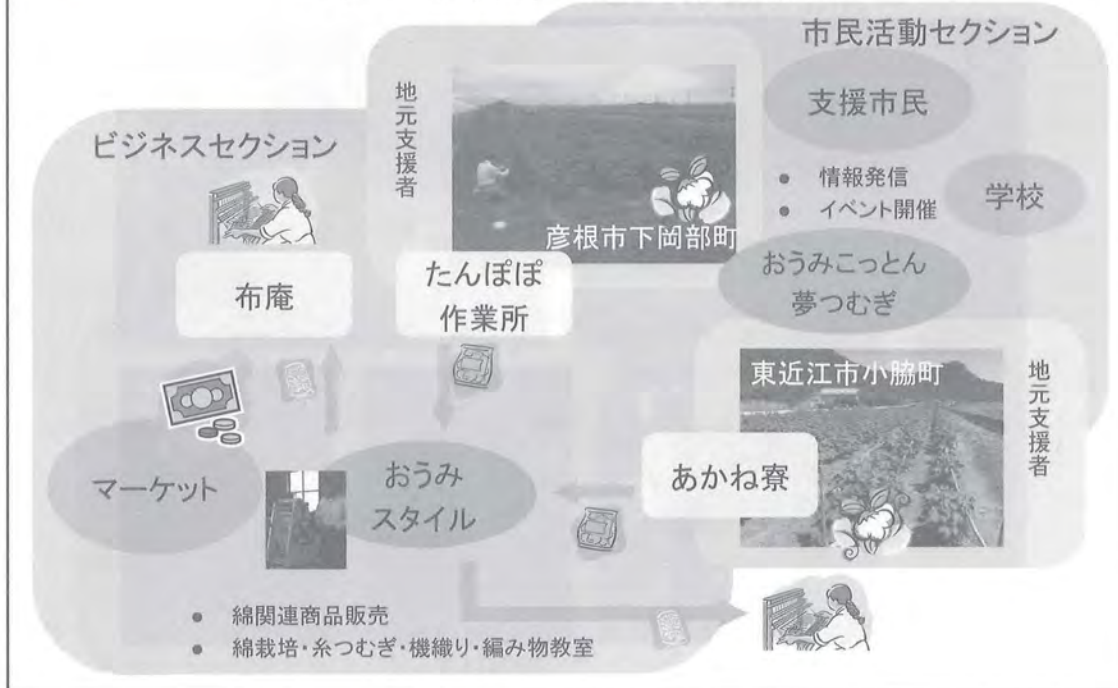
7. 結果・成果

- ◆ 綿づくり～糸つむぎ、機織りのサイクルが実現できた
- ◆ 活動を進めるにしたがって多くの人たちとつながりができた
 - 主体となって綿栽培、綿くり／機織り作業を行う福祉施設
 - 綿づくりの協力者
 - 糸つむぎ、機織りの専門家
 - 事業化にむけて協力してくれる人たち綿体験イベント開催の know-how が蓄積できた

■ 2010年度の展開

- 個人商店「おうみスタイル」(澤代表)を設立し、綿ビジネスの事業主体とする。
- 「おうみこっとな夢つむぎ」は塾生以外のメンバーを加え、福祉施設支援、綿づくり文化紹介等の活動を継続する。

未来塾10期 おうみこっとな夢つむぎ コミュニティビジネスと市民活動



イベントチラシ

綿の種まき参加募集!

日時: 5月5日(日) 10:00~13:00
場所: 彦根市下岡部町公民館横

【おうちこっとな夢つむぎ】
私たちは、スイッチを押せば何でもできる便利さと引換えに大切な何かをおきざりしてきたのではないのでしょうか?
【おうちこっとな夢つむぎ】グループは綿の栽培と加工を通して、忘れてしまった「暮らしの中の技」「手作りの楽しさ」を思い出す機会をつくりたいと考えています。
ここ彦根市の地でたんぼ作業者のみならずと地かして綿を栽培し、「おうちこっとな」を開催していきます。

【お問い合わせ・申し込み】
電話 0749-43-7201 澤まで
当日連絡先: 下岡部町公民館
電話: 0749-43-7415
または: 090-6750-3850 定まで



綿摘み参加募集!

わたの実って見たことある? おえ、一緒にどってみようよ!

日時: 10月24日(土)
次回: 11月14日(土) 小雨決行

【おうちこっとな夢つむぎ】
私たちは、スイッチを押せば何でもできる便利さと引換えに大切な何かをおきざりしてきたのではないのでしょうか?
【おうちこっとな夢つむぎ】グループは綿の栽培と加工を通して、忘れてしまった「暮らしの中の技」「手作りの楽しさ」を思い出す機会をつくりたいと考えています。
ここ彦根市の地でたんぼ作業者のみならずと地かして綿を栽培し、「おうちこっとな」を開催していきます。

【お問い合わせ・申し込み】
電話 0749-43-7201 澤まで

おうちこっとな夢つむぎ

地域作家さんの手づくり商品

おうちこっとな夢つむぎ

2009年12月03日

滋賀がよいもん市 出店





新聞記事・TV／ラジオ出演

- 京都新聞(6/21)
5/5種まきイベント取材
- KBS京都(7/22)
「笑福亭晃瓶の ほっかほかラジオ」
澤さん13分間電話インタビュー出演
- NHK大津(8/20)
昼のニュース、おうみ発610
速野公民館 夏休みお助け教室(コットン体験)
- 京都新聞(9/7)
9/6たんぼぼまつり取材
- NHK大津(11/30)
おうみ発610「環境メッセージ」

HMNDの番組「ニュース」(11月10日) Earth Station 2009年11月10日

綿栽培、復活へ夢つむぎ
彦根、休耕田で始動 文化体験や商品も

数年前に追加開墾された綿栽培を休耕田で復活。綿関連商品の製造販売を通じて農村観光や障害者の就労機会を主目とする取り組みが、彦根市西部で始まった。ビジネス的な手法で社会問題の解決を目指す「コミュニティビジネス」の実践で、地域活動リーダーを養成する「おうみ発610のメンバー養成」も、産官学連携で実現が継続できる地域。

休耕田での綿栽培
澤と江さん(左)ひかれて「おうみこ」させた。綿栽培の文化を研究する

9/6たんぼぼまつり

同作業所や地域の社会福祉協議会などでつくる実行委員会が主催し、25日。

出店ブースには、同作業所へ「国産綿糸による」の加工作業を促進する地元グループが「おうみこ」メンバーとして参加し、綿織りの体験などを行った。

ステップでは、甲良東洋学校の卒業生らが活動を力強く演説したり、たんぼぼ作業所に所属する「工房ふれっしょ」のスタッフが、障害者らが手作りするクッキーの味をアピールしていた。

おうみこっとな夢つむぎ

- ・ものづくり教育の推進、広がる人の輪
- ・さまざまなイベントに出展



体験学習



綿づくり交流



ひこねば2009



たんぼぼまつり

協力いただいた方々のメッセージ

まるエコの「第3回たえあう交流会」に「綿と機織りの会」で出展したとき、「田舎体験旅館みずほの郷」の澤さんに出会った。それが「おうみこっとな」との出発点だった。おわけした「和綿」の種はすぐに栽培され、道具の製作も行われ、協力者とともに製品化に向けての取り組みが着々と進められた。そこへ未来塾の方々が参加することとなった。意欲のある方々が、それぞれの能力を活かす形で進められた。直接お話できる機会は少なかったが、ブログや発表会の内容について、思うところを遠慮なく言わせていただいた。「おうみこっとな夢つむぎ」の活動を一年で形にし、再び「みずほの郷」へつないでいくという目標をうまく達成されたことには感服している。この活動に派生して、3月から産業支援プラザの創業オフィス「おうみスタイル」を構えるとのこと。出会いからここまでたった2年余りである。県（行政）の支援事業をうまく活用し、志を高く掲げ、あるものがうまく力を発揮しあえば「できる」という模範例。今後も末永く応援していきたい。

（滋賀県立琵琶湖博物館 主任学芸員 中藤容子（はしかけグループ「近江昔くらし倶楽部」担当）

22年度活動打ち合わせに、お忙しい中、駆けつけて下さった西村先生のお話です。

種まきからプランターで栽培され、綿くりをされた生徒さんについて

「何をしても10分と続かなかった子が、綿くりをさせると穏やかに続けられるのです。綿に対する子どもの変化に教師も親も驚いています。生物の成長を見ながら栽培や加工を体験させることが大切なのです。今日は、この話がしたくて来ました。草木染めや、さをり織りをしている子ども達にも綿の成長を確かめながら、ものづくりをする楽しさを与えてやりたいと思っています。そして、子ども会やサークル等、地域の行事に参加し、継続していけば大きな村おこしになることを確信しております。」

（甲良養護学校 西村先生から澤が聞き取り）

「おうみこっとな夢つむぎ」の活動を広報誌で知ったことがきっかけで、障がいのある人たちの作業として綿くりに取り組み始めました。今では、大好きな作業となり、本当にいきいきとした表情を見せてくれています。また、地域の方の協力を得て、綿栽培を始めることができ、自分たちで育てた綿でこだわりの手織り製品づくりを目指していきたいと思っています。今後も「おうみこっとな夢つむぎ」さんとのつながりを大切にして“ふるさと小脇郷で夢つむぎを”地域の方と共に取り組んでいきたいと思ひます。

（あかね寮 村田有希）

たんぼぼ作業所では、昨年5月、皆さんと一緒に、綿の種を植え、花が咲き、コットンボールがはじけるのを楽しみに夏を過ごしました。秋以降は、多いときは、週3回畑に出向き、にぎやかに綿を収穫し、今はコツコツと綿くり作業に励んでいます。

「おうみこっとな夢つむぎ」の皆さんに出会うまでは、綿の栽培をするということは、夢にも考えていませんでした。「昔ながらの方法で綿を栽培し、収穫した綿で事業展開をしていきたい。障がいのある人たちも、そのビジネスサイクルに参加しませんか？」という、私たちには願ってもしない声かけをしていただきました。これからは、いよいよ本格的なスタートですね。皆さんと一緒に夢を紡ぎ、夢を実現させたいと思ひます。

（たんぼぼ作業所利用者・職員一同）

去年3月、ヒョコンと出て来た世間知らずの普通の主婦。そんな人がただやりたい事を話ただけ。可能か、不可能か全く考えもせず。ただ手を上げただけです。

大きな仕事を終えられた方、大切な役職にいる人、障がいを持った人に心底尽くしていられる人。「どうしてこんな話に乗るの？」半信半疑で分厚い布団に座らせてもらいました。「今日は転けるかな、明日ずり落ちるかな」毎日そんな思いでいました。

4月から広報活動やイベントがどんどん進んで行き、不慣れな会議や発表が続き、私は皆さんについて行くのがやっとでした。

6人の考え方や経験が余すことなく集中した時、こんなにも大きな力になることを学びました。人を信じ、その力を借り、頼ることで目標の先にある人や事業に近づき、又その場で貢献できることを知りました。分厚い布団から落とさなかった信頼というバリエードに感謝しております。(澤)

娘が就職して家を離れ、私が30年勤めた会社を辞め、息子が海外赴任を目前に結婚すると言い出し…、我が家にとって激動の一年でした。しかし、それは私の事情。

他のメンバーの皆さんが仕事を持ちながらグループ活動をするには、それぞれ大変なことがあったに違いありません。

この活動がここまでできたのはメンバーの努力と家族の皆さんの理解があったからこそ。感謝します。ありがとうございました。(芝)

2年目のグループ活動は、職場が変わったこともあって、土日しか活動ができず、申し訳なく思っています。しかしながら、メンバーに恵まれ、他のメンバーの積極的な行動によって、人の輪が大きく広がり、目標に向かって大きく前進できました。この一年の成果を更に拡大していくため、出来るだけの努力をしていきたいです。ありがとうございました。(北川)

この一年、綿のイベントを本当に楽しくさせて頂いて感謝しています。子どもや知らない人に伝えるという難しさ、まだまだ言葉足らずだったなと感じています。残念だったのが、参加者の年齢が幅広く小さい子の怪我があったことです。これからは事前に説明と注意が必要だと感じました。今後も活動を継続するにあたり、楽しいだけでなく、この反省を忘れず実行して、もっと大きな人の輪にしたいです。ご縁のあった方々に心からありがとうございます。(池田)

このグループに加わって、“夢つむぎ”というネーミングとロゴマーク(名刺)を使ってもらったことがひとつの思い出です。メンバーや賛同する人々や協力者とともに、綿をつむぎ、夢をつむぎ、人の輪や和を未来に向かって紡ぎ織りなしてきた……そんな夢つむぎが今、新しい門出をする！私は遠距離で参加も少なく反省ばかりですが、未来の可能性に向かってはばたいてほしいです。これからも気になるゆ・め・つ・む・ぎ(藤野)

普通の市川「地域プロデューサーってスゴイよねー。地域のために粉骨砕身、リーダーシップを発揮して、自らも汗をかく！みたいなね。」

真面目クサイ市川「でも、地域のことを愛し、夢を持ってムーブメントを起こせる人はみんな地域プロデューサーなんじゃないかな。」

いい加減な市川「愛とか、夢とか、かったりーんだよ。そもそも滋賀愛着なんて持ってねーしい」

本当の市川「まあ、あまり肩肘張らずに、ボクはボクなりにボクにできることをしようかな」(市川)

おうみこっとな夢つむぎ 活動一覧

年/月/日	曜日	時刻	概要	場所	備考
2009/4/10	金	19:00-21:00	活動計画、種まきイベント打ち合わせ	「みずほの郷」彦根市本庄町	
2009/4/25	土		近江楽座発表会「稲枝コットンプロジェクト」	滋賀県立大学	
2009/4/27	月	10:00-15:00	たんぼぼ作業所、あかね寮、下岡部町挨拶	彦根市、東近江市	
2009/5/5	火	10:00-15:00	種まきイベント	彦根市下岡部町	参加者70名
2009/5/5	火	17:00-	グループ合宿	「みずほの郷」	
2009/5/9	土	14:30-16:30	運営委員指導会	ピアザ淡海	
2009/5/23	土		NHKわかば基金助成金申請		芝
2009/6/5	金	15:30-	甲良養護学校訪問	甲羅養護学校	澤、市川 西村先生
2009/6/6	土	14:00-17:00	Gp会議	みずほの郷	
2009/6/15	月		びわこCO2ダイエット助成金申請		市川
2009/7/4	土		Gp会議 会則作成	みずほの郷	
2009/7/11	土	8:00-12:00	下岡部畑支柱立て作業	下岡部町	
2009/7/15	水		地元小学校支柱立て作業	稲枝東小学校	澤
2009/7/16	木		地元中学校支柱立て作業	稲枝中学校	澤
2009/8/1	土		下岡部畑支柱立て作業	下岡部町	
2009/8/7	金	11:00-13:00	びわ湖・まるエコ・DAY打合せ	滋賀県庁	池田、琵琶湖 博物館中藤さん
2009/8/20	木	10:00-12:00	夏休みお助け体験教室(綿くり~糸つむぎ)	守山市速野公民館	主催:池田
2009/8/22	土		綿づくり交流 連携相談	高島地域地場産業振興センター	綿'sクラブ伊藤会長
2009/8/30	日		Gp会議たんぼぼ祭り、綿摘みイベント打合	みずほの郷	
2009/9/1	火	8:30-12:00	東近江市 あかね寮綿畑作業手伝い	あかね寮	澤、芝
2009/9/5	土		「綿摘みイベント(第1回:10/24)チラシ」作	速野会館	池田
2009/9/6	日		たんぼぼ祭り 綿づくり体験デモ	彦根市たんぼぼ作業所	澤、池田、北川
2009/9/17	木		びわ湖・まるエコ・DAY 実行委員会	県庁	芝、池田
2009/10/3	土	15:00-17:00	Gp会議、中間発表リハーサル	みずほの郷	
2009/10/10	土	10:00-17:00	中間発表会	コラボ21	司会:山城
2009/10/24	土	10:00-15:00	綿摘みイベント	下岡部町	参加者40名
2009/10/31	土	10:00-16:00	HIKONE-BA出展 オープニングイベント	彦根市文化プラザ	パネル展示 +綿くり、糸車デモ
2009/11/3	祝		オータムフェア	びわ湖大津館	池田(広田)
2009/11/7	土				パネル、綿くり機、 糸車展示
2009/11/8	日		稲枝地区文化祭	稲枝地区体育館	
2009/11/14	土	10:00-12:00	綿摘みイベント	下岡部町	参加者30名
2009/11/18	水		地元小学校で綿くりなどの体験学習	稲枝東小学校	澤
2009/11/28	土		びわ湖・まるエコ・DAY 出展 11/28 未来絵図描き込み 山城さん 11/29 コットン体験@博物館生活工房		パネル展示 綿くり、糸車デモ
2009/12/6	日		12/5 午前ビジネス交流会 12/6 午後未来絵図講評	琵琶湖博物館	交流会発表
2009/12/13	日		滋賀が いいもん市	栗東「さくら」	池田
2010/1/24	日	15:00-18:00	2010年度 活動方針会議	みずほの郷	19名参加
2010/1/27	水	8:30-10:00	聖泉大学CLCプログラム市民活動講義	聖泉大学	澤、池田、芝
2010/2/6	土	13:00-17:00	Gp会議、卒業までの活動確認etc.	みずほの郷	
2010/2/19	金	18:00-20:00	2010年度 コアメンバー活動方針会議	みずほの郷	8名参加
2010/2/27	土	14:00-	Gp会議、活動報告会最終打ち合わせ	みずほの郷	
2010/3/7	日	9:00-	成果発表会・卒業式	ピアザ淡海	司会:中島、山城

おうみ未来塾 第10期生

「仕事人と語ろう！」グループ 活動報告書

～ グループメンバー ～

安藤和人・石村嘉規・小中政治・中田恵理香・山城智恵子・松原弘保

1. はじめに

急速な社会環境の変化により、現代日本では、様々な社会問題が噴出しています。例えば、若年層の就業に関わる問題（ニート、フリーター）や地方部での犯罪の増加などの問題も、高度経済成長期の時代には誰も予測できなかった社会問題です。

これらの社会問題は、いずれも核家族化による家庭での対話の不足や地域コミュニティの希薄化などが根底の要因にあると考えられており、大家族や村社会の時代を懐古する中、家族のあり方や地域社会のあり方が再考されているところです。

現代社会が抱えるこのような問題を解決するには、ごく身近なところからコミュニケーションを活性化させ、家族や地域の人々との身近な人間関係を緊密にしていくことが第一段階であると考えられています。つまり、身近なコミュニケーションを活性化させることにより、子ども→家族→地域へと連鎖し、より良い社会循環が期待できるという考え方です。

私達の取り組んでいる「仕事人と語ろう！」では、様々なジャンルの仕事人を招き、仕事をしていく上での厳しさや楽しさについて本音で語っていただき、様々な仕事人の話を親子で聞くことによって、幅広い職業観が養われ、家庭においても「仕事」をテーマとした対話が生まれることが期待できます。また、地域で活躍する仕事人の話を聞くことによって、「仕事」を通して、地域を見る目・考える力が養われることになり、地域の人々に役立つ仕事や、自分自身が地域で生活していくことの意義について考えるきっかけになります。

「仕事人と語ろう！」は、子ども達の職業観を開いていくことに加え、家庭や地域コミュニティを活性化させることにより、子ども達を取り巻く社会環境の健全化に寄与する取り組みであると考えております。

また、政府が策定する初めての教育振興基本計画が、平成20年7月1日に閣議決定されましたが、この計画は、60年ぶりに改正された教育基本法の理念を実現し、教育再生に道筋をつけるために極めて重要なものと位置づけています。今後10年間を通じて目指すべき教育の姿に、「義務教育修了までに、すべての子どもに、自立して社会で生きていく基礎を育てる」こと、義務教育以降の教育を通じて「社会を支え、発展させるとも

に、国際社会をリードする人材を育てる」ことを掲げ、さらに、「世界トップの学力水準」、「昭和60年代の体力水準への回復」、「知の創造・継承・発展に貢献できる人材の育成」などの目標を明らかにするとともに、これらを達成するために今後5年間に於いて取り組むべき施策についても総合的・体系的に示しています。

前文部科学大臣の渡海紀三朗氏は、この教育振興基本計画の策定に際し、「教育の振興は政府だけで成し得るものではなく、地方公共団体、学校、保護者、地域住民、企業、社会教育団体、民間教育事業者、NPO、メディアなど、まさしく社会全体で取り組むことが求められます。今後の社会の変化や国際競争の激化等の中で、教育の発展なくして我が国の持続的発展は考えられません。我が国の未来を切り拓く教育の実現に向けて、私たちは、本計画の着実な実施に全力を挙げて取り組んでまいります。国民の皆様におかれても、今後一層のご理解とご協力をお願いいたします。」というメッセージを送っています。

2. 我が国の教育をめぐる現状と課題（「教育振興基本計画(H20.7.1)」より抜粋）

(1) 政府が策定した教育振興基本計画では、次のように課題設定しています。

『都市化、少子化の進展や経済的な豊かさの実現など社会が成熟化する中で、家庭や地域の教育力の問題や、個人が明確な目的意識を持ったり、何かに意欲的に取り組んだりすることが以前よりも難しくなりつつあることが指摘されるようになってきている。こうした状況の中で、近年、教育をめぐる、子どもの学ぶ意欲や学力・体力の低下、問題行動など多くの面で課題が指摘されている。また、官民の分野を問わず発生し社会問題化した多くの事件の背景には、社会において責任ある立場の者の規範意識や倫理観の低下があるとの指摘がある。さらには、社会を構成する個人一人一人に、自ら果たすべき責任の自覚や正義感、志などが欠けるようになってきているのではないかと懸念する意見もある。このような状況は、経済性や利便性といった単一の価値観を過剰に追求する風潮や、人間関係の希薄化、自分さえ良ければ良いという履き違えた「個人主義」の広がりなどがあいまって生じてきたものと見ることもできる。しかしながら、経済などの一面的な豊かさの追求のみによっては真に豊かな社会を実現することはできない。我が国社会を公正で活力あるものとして持続的に発展させるためには、我々の意識や社会の様々なシステムにおいて、社会・経済的な持続可能性とともに、人として他と調和して共に生きることの喜びや、そのために求められる倫理なども含めた価値を重視していくことが求められている。同時に、近年、少子高齢化、高度情報化、国際化などが急速に進む中で、我が国では、社会保障、環境問題、経済の活力の維持、地域間の格差の広がり、世代をまたがる社会的・経済的格差の固定化への懸念、社会における安全・安心の確保などの様々な課題が生じている。我々を取り巻くこうした国内外の様々な状況の変化を踏まえつつ、課題に立ち向かい、乗り越えるための知恵と実行力をいかに生み出していくかが、今まさに問われている。』

(2) 平成20年度 全国学力・学習状況調査のアンケート結果（国立教育政策研究所）

「将来の夢や目標を持っていますか」という問いに、「持っている」と答えた小中学生の割合

・小学6年生(全国) 70.0% → 中学3年生(全国)43.7%

・小学6年生(滋賀県) 66.3% → 中学3年生(滋賀県)39.4%

※ 滋賀県(中学3年生)は、全国の都道府県中、第45位である。

3. 課題解決の具体的方策

滋賀県の策定した「滋賀の生涯学習社会づくり基本構想(H18.3)」や、国の中期目標（教育振興基本計画（平成20年7月1日閣議決定））では、学校・家庭・地域の連携・協力を強化させて、社会全体の教育力を向上させることの重要性を示し、国の長期目標（同上）では『義務教育修了までにすべての子どもに自立して社会で生きていく基礎を育てること』を目指すべき教育の姿として掲げています。

子どもの自立を促し、社会で生きていくための基礎を植えつげるために、家庭・地域・学校の3者に産業界を加え、全国或いは県内規模での広域的で画一的な連携を考えるのではなく、まずは地域（小学校区）ごとの現状を知り、打開策を練り込む必要があります。同じ滋賀県内でも、都市部の小中学校と農村地帯の小中学校では、地域の条件や抱える課題が異なります。例えば、都市部では核家族化が進み、両親と学校・塾などの限られた人間関係の中でのつまづきが起因する登校拒否や引きこもりなどの問題がありますが、農・林・漁村部においては、高学歴化に伴う都市部への就学機会が増し、生活至便な生活から都会志向となった青少年の流出が進み、農林水産業の担い手不足に苦慮しているなど、地域が抱えている課題もケース・バイ・ケースです。

また、各々の地域には、各々の自然環境・歴史・文化・風習・地場産業等の環境要因が存在し、各々の地域に在住する子ども達自身が抱く将来の夢が、それらの要因を取り巻いています。

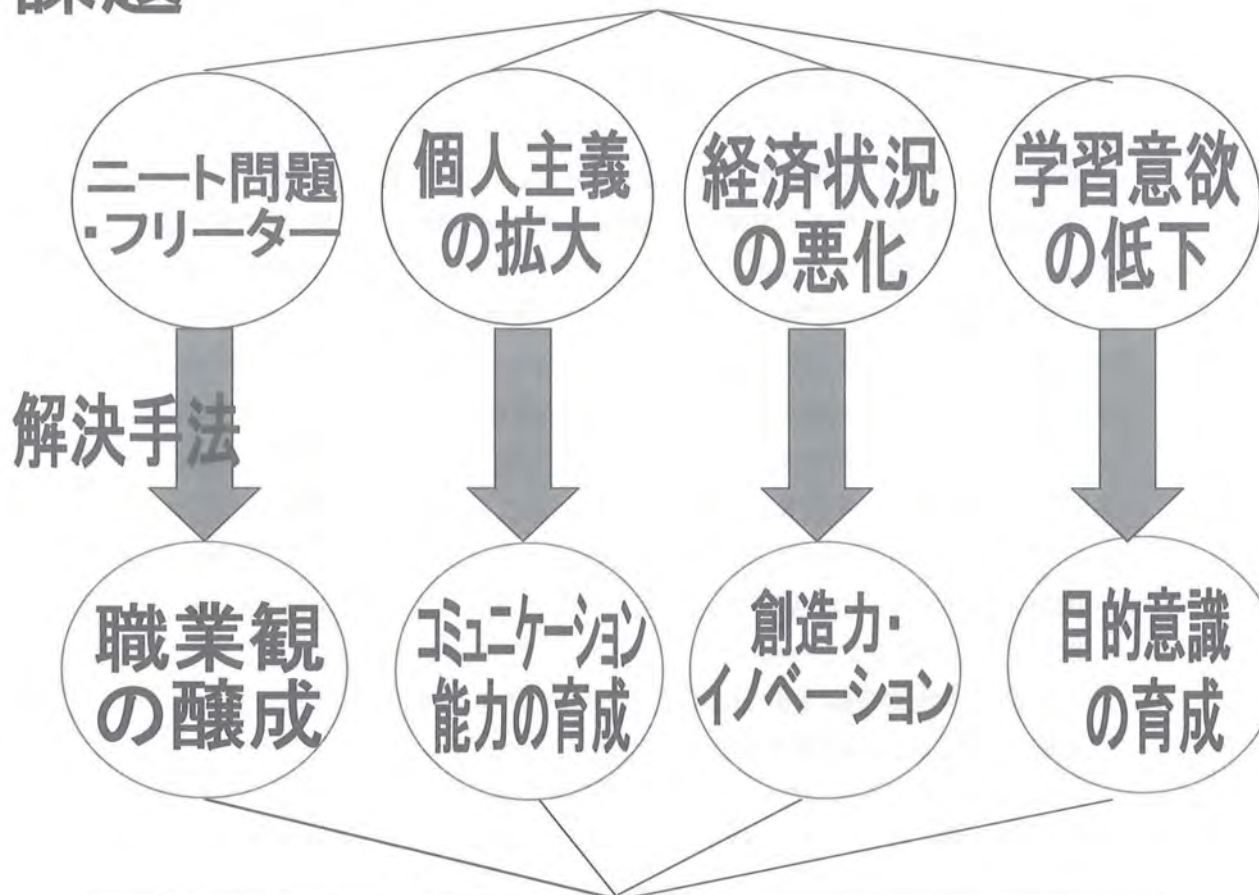
さて、「義務教育修了までに、すべての子どもに、自立して社会で生きていく基礎を育てる」ためにはどのような取り組みが必要なのでしょうか。

「子どもの社会的な自立」について一言で説明することは難しいですが、例えば仮に、社会のルールを守り、勤労の義務、納税の義務を果たすことと定義付けした場合、子どもと、家庭・地域・学校・自然環境・歴史・文化・地場産業などのファクターの全てを包括し、それぞれの環境要因を連携させるツール（施策）が必要になります。

Mission

「義務教育修了までに、すべての子どもに、自立して社会で生きていく基礎を育てる」

⇒ 子どもの自立 課題



仕事人と語ろう！

「仕事人と語ろう！」グループ

4. 「仕事人と語ろう！」とは

「学校」や「公民館」に様々なジャンルの仕事人を招き、子ども達が自分の将来について考える機会を提供します。

「地域」で活躍する仕事人の話を親子で聞くことにより、「家庭」から職業に関する対話が生まれ、子ども達の自立心の醸成に繋がります。

子ども達の職業観を開くことに加え、家庭や地域コミュニティーを活性化させることにより、子ども達を取り巻く社会環境の健全化に寄与する取り組みであると考えます。

5. これまでの主な活動（平成21年5月～平成22年3月）

#1 米原公民館(2009/7/4)

#2 地域力創造大交流祭:立命館大学(2009/7/19)

#3 長浜公民館(2009/9/5)

#4 守山南中学校(2009/10/20)

・PR活動:高島市教頭会での講演

#5 彦根南中学校(2010/1/28)

#6 学校支援メニューフェア(2010/2/12)

・PR活動:今津中学校での卒業記念講演

※ 活動の詳細は、別紙「活動の経過」を参照してください。

(1) 米原公民館(2009/7/4)

■よかったこと

- ・メンバー全員が、自分の仕事について語り、伝える難しさを知った。
- ・子どもの感想の中で、仕事人の話が参考になったという意見があった。

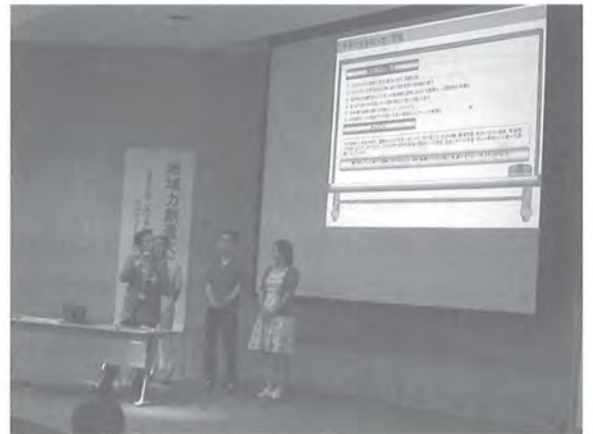
■課題となったこと

- ・子どもにわかりやすく話すことは難しい。
- ・簡単なマニュアル作りが必要。



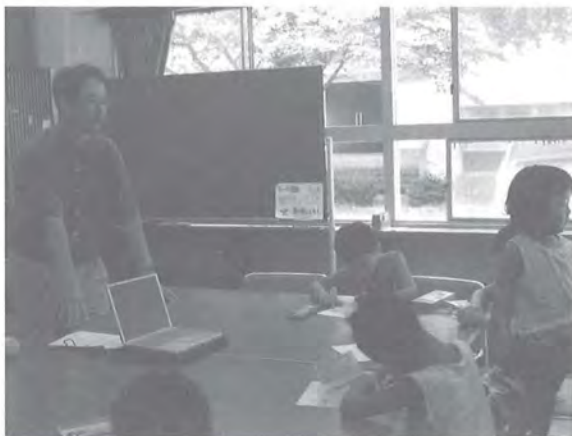
(2) 地域力創造大交流祭:立命館大学(2009/7/19)

- よかったこと・県内自治体職員のネットワーク強化に繋がった。
 - ・ 広く「仕事人と語ろう！」事業のPRが出来た。
- 課題となったこと・グループのミッションを効果的に伝える技術。
 - ・ 広報手段の充実(紹介パンフレット、ホームページの製作)



(3) 長浜公民館(2009/9/5)

- よかったこと・子どもの感想によると、わかりやすかった、実験がおもしろかった、また聞きたいなど、プラスの意見が多かった。
- 課題となったこと・参加人数が、子ども6人、大人2人と少なかった。
 - ・ テーマが難しいのかな。人を集める方策もいるのでは・・



(4) 守山南中学校(2009/10/20)

■よかったこと

- ・中学生の真剣さ、熱心さに触れることができよかった。また、質問のレベルの高さにも驚かされた。

■課題となったこと

- ・今回は、県教委からのリクエストに応える形で、NPO団体職員として中田さんが講師として参加されたが、今後は主催者への企画提案が出来るようにしていきたい。



(5) 彦根南中学校(2010/1/28)

■よかったこと

- ・県教委・生涯学習課からの依頼で、中学校の担当者がすごく熱心な方だった。
- ・自治体職員のネットワーク、個人のネットワークが活用でき、講師の方にも喜んでもらった。
- ・生徒から感謝の言葉をかけてもらった。

■課題となったこと

- ・中学校側からのリクエストに応えられない業種があり、迅速な対応ができなかった。
- ・仕事人ネットワークの拡充
- ・依頼様式、発表の手引き等の充実



■生徒さんの感想(抜粋)

- 看護師の方と保育士の方の話は、とても分かりやすかったです。まだ将来の夢とかないけれど、2つの授業を聞いて、看護師か保育士になりたいと思いました。
- 私は、看護師になりたかったので、今回の授業を楽しみにしていました。実際にどんな仕事をしているのか写真で説明してもらって、とても参考になりました。
- 看護師さんや介護福祉士さんは、人にやさしく接する仕事なので、僕もお年寄りや障害のある方にもっとやさしくできるよう努力したいと思います。2年生になると、職業体験の学習があるので、ぜひ参加したいと思います。
- パティシエの仕事に興味を持ちました。実際に生クリームをしぼることに挑戦して、私もあんなケーキを作りたいと思いました。
- 産業用ロボットの授業は、映像で説明いただき分かりやすかったです。本物のロボットの動きを間近で見て、すごいと思いました。
- 産業ロボットと消防士の授業は、講師の方から心に残るエピソードを語っていただき、感動しました。
- 料理研究家になったきっかけは、自分が身体の具合が悪くて、食に興味を持つようになったと、おっしゃっていました。僕も私生活の中で、何かきっかけをつかんで夢を実現したいと思います。



■講師の方からの感想(抜粋)

- ①今回、連携授業の機会を頂き、普段中学生の方と交流が少なく、今の生徒さんの夢への思いを直接聞くことができ、とても刺激になりました。講話をさせて頂いて、今までの人生を振り返り、初心に戻る事ができたと感謝しています。これから厳しい社会に飛び込まれる子どもたちに夢を持ち、それを実現するため、たくましく生き抜く力を、学生生活の中で育ててほしいと思います。
- ②生徒の皆さんの前でお話する機会は、ほとんどないのでとても緊張しましたが、教室の担当の先生方がフォローして下さったので、話やすかったです。こちらからの呼びかけにも反応して頂き、話を聞いてもらえているなど実感しました。パティシエの仕事について、少しでも理解して頂けたら嬉しいです。
- ③少しむずかしい産業ロボットの講話でしたが、最後まで生徒さんの真剣な授業態度が良かった

です。

- ④クラスごとに特徴があり、その雰囲気慣れ、子ども達にとけ込むのに、とまどいがありました。普段は大人を相手に話をしているので、大人では当たり前の言葉ももう少し簡単な、分かりやすい言葉におきかえて、話さなければいけないと思いました。(例えば、情報、栄養、ビタミン、専門分野など)
- ⑤事前に、自分の希望する職種を選び、その職につく人の話を聞くというスタイルで実施されたので、生徒たちは、目を輝かせて消防士の話を聞いてくれました。こちらの思いがどれだけ伝わったか分かりませんが、地域の人材を育てる意味では、非常に有意義だったと思います。
- ⑥中学生1年生が対象ということで、どのような内容で話せばいいか、いろいろと悩みましたが、静かに集中して聞いてくれて授業が進めやすかったです。今回の授業が生徒さんにとって、将来の事を考えるきっかけのひとつになってくれたら嬉しいです。



(6) 学校支援メニューフェア(2010/2/12)

■よかったこと

- ・登録団体とのネットワークが構築できた。
- ・小中学校の先生に存在をアピールできた。

■課題となったこと

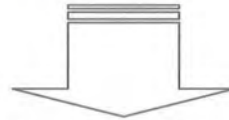
- ・短時間でわかりやすいPRが出来るよう、ポスター、パンフレット、紹介ビデオの製作が必要。



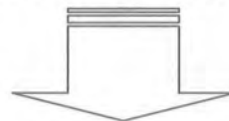
6. 今後の活動について

- 学校支援メニューに団体登録していることにより、今後も依頼が増える可能性がある。そのために、横のネットワークの拡大、強化を図る。
- 事業継続のため、地域活性化事業の募集等に積極的に企画提案し、参入していく。
- 広報手段の充実
 - ・ ホームページの構築
 - ・ パンフレットの作成
 - ・ グループ紹介ビデオの製作
 - ・ グループロゴ・名刺の製作

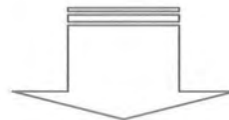
「仕事人と語ろう！」



地域の学校支援



ソーシャルキャピタルの構築



子ども達の自立心「夢・目標」を醸成



大津まちなかもりあげ隊 中心市街地の再生

～商店街に賑わいを取り戻すには～

大津は琵琶湖水運の拠点として、東海道の宿場町として大いに賑わった歴史があります。琵琶湖を始めとする素晴らしい自然環境と歴史の中で育まれた伝統文化を伝える魅力溢れる街です。商店街の方々との交流を通して、一緒に考え、一緒に汗を掻きながら、大津の自然や歴史、伝統文化が活かされた、賑わいのある商店街を目指して活動に取り組みました。

賑わいのある商店街を目指して
地域に入り、地域の方々と交流



大津まちなかもりあげ隊

グループメンバーの紹介

大津の街が大好きです！
代表 鈴木道弘

大津のまちが元気であってほしい！
世話役 恒岡善博

住み続けたいまちだから
会計 佐々木誠樹

活気のあるまちにしたいから！
編集委員 福本孝三

和気あいあいのまちづくり
寺田英幸

小林明倫

～大津の魅力を活かす～



応援

大津まちなかもりあげ隊

地域の方々にとっても、商店主の方にとっても
魅力あふれる元気な商店街へ

伝統文化を活かしてまちづくり
町家・大津そろばん

「商・農連携による
1店1域運動」の展開

商店街のお宝発掘
大津まちなかマップの作成
ウォーキングの企画

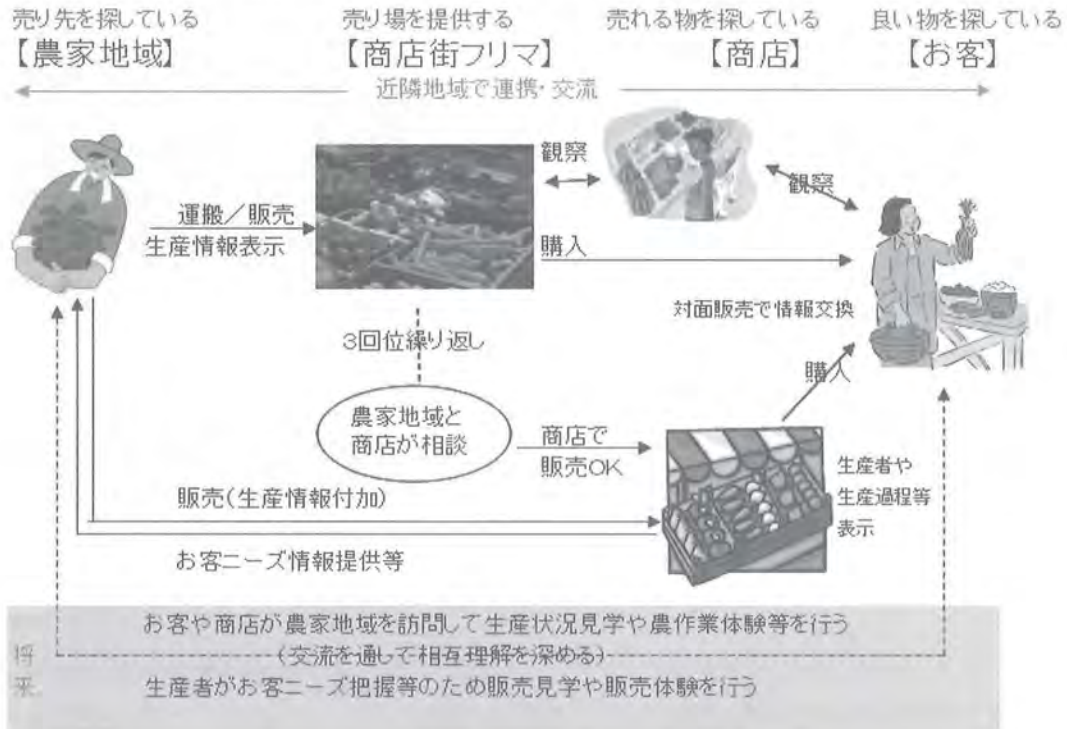
お店のこだわり・お薦め品を
情報発信

大津まちなかもりあげ隊

農業連携による「1店1域運動」の展開

0. 「1店1域運動」の概念

— 地産地消・エコ・安全安心確保を推進 —



1. これまでの活動

(1) 商店街フリマに3回出店...豊郷町雨降野地域

A. 反応: 顧客には好評、連携には課題あり

- ① 商店側: 1度見学、運送方法に不安
- ② 農家側: 売上金額はOK、経費が高い

B. 来客へのアンケート結果...2回目時採取、回収数=10

- ① 何を買いましたか? (複数可) 野菜=7、花=3、米=1
- ② 買った理由は何ですか? (複数可)
 - a. 値段が手ごろだから=5
 - b. 商品が新鮮だから=5
 - c. おいしそうだから=4
 - d. 無農薬野菜のものだから=3
 - e. 店の名前の印象で=1
 - f. 他の店で扱っていないから=1
- ③ あなたは? 女性=9、男性=1
- ④ あなたの年齢は? 60以上=5、50代=2、20代=2
- ⑤ あなたの同居人数は(自分含む)? 2人=5、1人=3、3人=2
- ⑥ あなたの住まいは? 戸建住宅=6、集合住宅=3
- ⑦ お住まいの場所は? ここから1Km以上=5、1Km未満=3

- ・値段・鮮度に関心が高い
- ・ご年配女性に人気
- ・近隣マンションからのお客が少ない
- ↑
- お客掘り起こしのポイント



2. 今後の予定 ... まだしばらくフォローが必要

(1) 近隣マンションへのアプローチ...チラシ配布



500m
内には
大きな
マンション
も



なかもろ商店街付近には中小マンションが散在



浜大津駅そばの大きなマンション

(2) フリマ出店者の探索

大津市民活動センター主催「地域で支える農と食・交流編」セミナー参加者と接触

(3) 現在進行中のもの

A. チラシ(案)...3月頃配布予定

・表面: 大津市民活動センターのHP内の

「大津まちなかもりあげ隊」サイトの紹介 ← 画面貼り付け

・裏面: フリマ情報(場所地図入り)... 浜大津フリマ、菱屋町フリマ等
イベント情報

B. フリマ出店者...交渉中

① 大津市仰木地域の30~40才代を中心とした十数名のグループ

② 生産物

- ・卵(黄身の部分が白いもの)
- ・米、ソバ
- ・野菜
- ・イチゴ
- ・ケーキ 等々



商店街のお宝発掘、マップを作成しウォーキングを企画

私たちはグループ活動として大津の中心市街地、とりわけ昔は大いに賑わったアーケードのあるなかまち商店街の活性化に取り組んだ。しかし、商店街の実態については寂れていること以外にはほとんど知識がなかったので、まず3商店街の振興組合の理事長さんに会い、商店街の情報を得るとともに私たちの活動の趣旨を説明し協力をお願いした。

そして活動の4つの柱の1つとして商店街に今も残るお宝を発掘しマップを作り、商店街の素晴らしいところをPRするため以下の活動を行った。

- ・ 商店街を中心に魅力のあるお店を選び、直接取材を行う。また歴史のある場所を発掘し調査する。

「取材を行ったお店」

三井寺力餅 九重味噌 平井酒造 光風堂（和菓子） 阪本屋（鮎ずし） 八百与（つけもの）
タニムメ水産（琵琶湖の川魚） 大津絵の店

「歴史・伝統」

大津事件の碑 大津祭曳山展示館 大津百町館（築100年の町家） 大津城の石垣
札の辻（江戸時代高札場があり旧東海道と北国海道の分岐） 長等神社（大津京の鎮護）

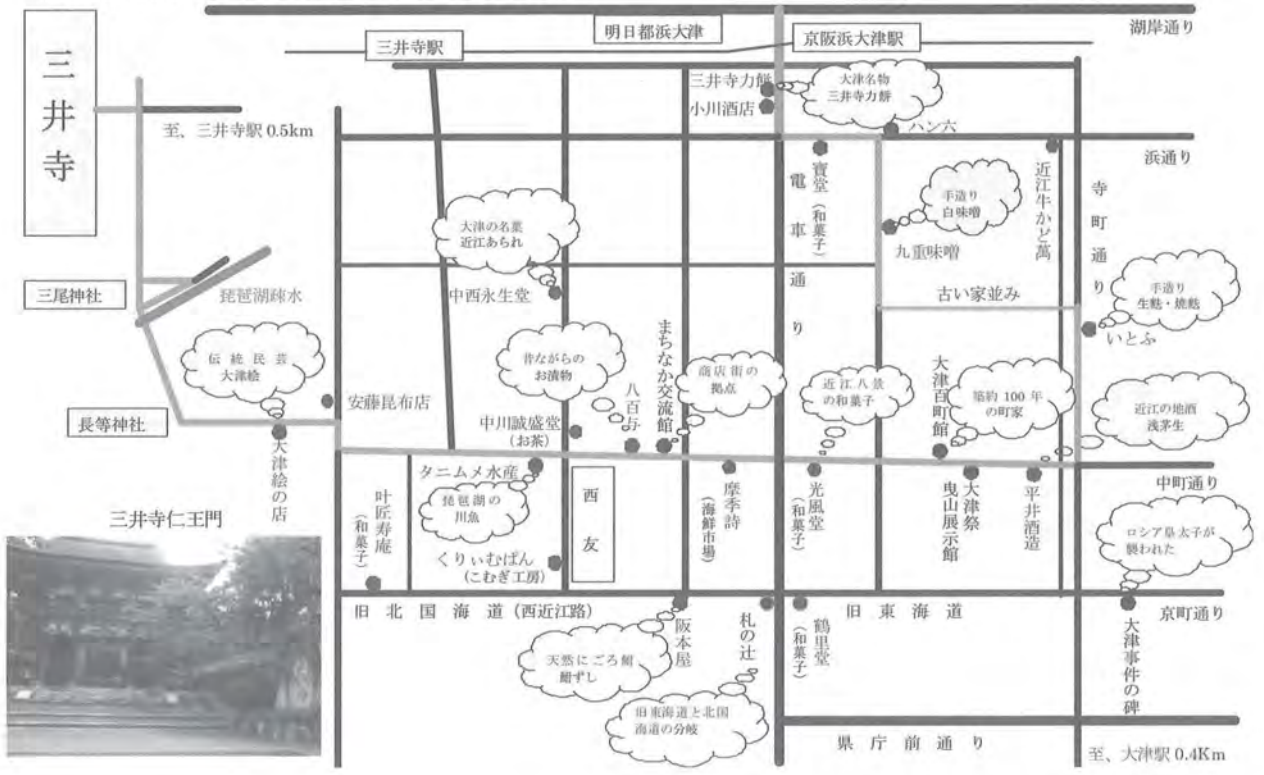
- ・ ウォーキングマップを作成する。
取材や調査に基づいて表にマップ、裏面にお店のこだわりやお薦め商品等を紹介する。
- ・ ウォーキングマップの活用について
マップは大津港、京阪浜大津駅、JR大津駅、大津祭曳山展示館、大津百町館等に置かせてもらった。また、大津市市民活動センターのホームページに掲載していただき、誰でも自由にマップのコピーができるようにしてもらった。
- ・ おうみ未来塾10期生塾生会（22年1月23日）
大津まちなかもりあげ隊のフィールドを紹介するためマップに従ってなかまち商店街のお店を案内した。当日は訪問したお店や施設にはこだわりやエピソード等の説明をして頂いた。
- ・ イベントの企画（3月13日）
びわ湖大津観光協会と協働し、ボランティア団体 おやじのたまり場の応援を得て、琵琶湖開きに参加したお客を対象に大津まちなかウォーキングを企画実施した。（先着60名）
- ・ 日帰り旅行の誘致
観光バス会社（とりあえず奈良観光バス）に大津への日帰り旅行を企画した資料を郵送し、担当者へ内容の検討をお願いした。その結果ある程度の評価を頂いたようで、団体旅行を申し込んできたお客を紹介するとの返答を頂いたので連絡を待つことにする。

大津まちなかウォーキングマップ

ウォーキングコース

大津のまちなかを、お店や神社などを見ながら歩いてみませんか
(大津港から浜大津駅、なかもち商店街を通り三井寺まで、約2Km)

大津まちなかもりあげ隊
お問い合わせ先
鈴木 (090-1221-6544)



三井寺力餅



明治2年の創業より「味、美、彩」と手造りの粋を守り続けた「力餅」は、怪力で名高い奔鹿になんで名付けられた伝説ある大津の名物です。
店では、きな粉をふだんにまぶしたお餅が食べられます。

九重味噌



創業明治元年、昔ながらの籠蓋を使った手造りで甘味豊かな米糍を造り、また塩分を限界までひかえることで、甘味、香りを引き立たせた白味噌専門の醸造元です。
高級料亭から家庭の台所まで幅広く販売、店では盛り売っています。

平井酒造



万治元年(1658年)創業以来大津で酒造り340年の歴史を持ち、昔ながらの手造りにこだわりながら、「当蔵ならでは」と言われるお酒を造ってきました。銘柄「浅茅生」は1677年後水尾天皇皇子聖護院宮道寛親王より賜った和歌より命名しています。

大津祭曳山展示館



当館は大津の人々が誇る伝統行事である大津祭の展示を通じ、大津の町文化をシンボライズするテーマ館です。
原寸大の曳山模型を中心に壁面に照らす街並みを再現。音響効果、照明、スライド投影により祭りムードがたっぷり味わえます。入館無料

光風堂



明治35年創業、素材に妥協せず最上級のものを使用し、また季節感を大切に和菓子作りをしています。特に、近江八景にちなんだ和菓子が人気です。
今後は、若い人たちに親しまれ、浜大津の新しいブランドになれるような和菓子の開発を考えています。

阪本屋



にごろ餅を使った餅ずしは、伝承の製法を守り手間と年月をかけて製造しており、天然の発酵による独特の酸味と風味は、近江の高級珍味として珍重されています。
また、湖魚を使った佃煮や、あゆ宝来漬なども販売しています。

八百与



嘉永3年(1850年)創業、昔からの伝統を守った商品づくりに取り組み、季節に応じた旬の漬物を手作りして製造販売しています。
また、大正期からの宮内省御用達覚書や、法事大福帳を所蔵しており、伝統を伝える資料をお見せできます。

タニムメ水産



明治30年創業、琵琶湖(北湖)にどれた新鮮な湖魚を、昔ながらの料理法で調理しています。
特に湖魚の旬の魚や佃煮をはじめ、愛知直送のうなぎの炭火焼、自家製の餅ずしなど数多くの商品を揃えた川魚専門の店です。

大津絵の店



大津絵は江戸初期寛永年間(1624~43)頃に書き始められ、初期は大衆の信仰を対象とした佛画が描かれ、後には鬼の念佛、藤娘、弁慶など多くの画題が生まれました。
店では掛け軸や、手書きで制作した色紙やストラップまで揃えています。

長等神社



天智天皇が近江大津宮へ遷都(667年)の際に都の鎮護として、須佐之男命を志賀の長等山岩崖谷の地に祀られたのが始まりである。
天智天皇が(669年)5月5日、当神社へ弓矢を奉納され、その日を祭日と定められ、今も例祭としている。

大津まちなかもりあげ隊

伝統文化（大津そろばん）を活かしてまちづくり



【取材・情報収集活動】

- 大津歴史博物館・郷土史家 大津の歴史・伝統文化（大津そろばん）
- 三井寺観音堂「大津そろばんまつり」 全国珠算教育連盟滋賀県支部取材
- 大津そろばんの歴史・珠算教育の現況 商店街にて「大津そろばん」についての認識
- 大津百町といわれた町家や古い家並みを視察

「大津そろばんに親しむ会」を企画

大津はそろばんのふるさとです！

大津そろばんに親しむ会



三井寺観音堂にある大津そろばん碑

江戸時代の初期、大津の片岡庄兵衛は中国風のそろばんを手本として苦心を重ね、玉の形・寸法・わく組み等を改良しすぐれたそろばんを作り上げました。その後多くのそろばん師が生まれ大量のそろばんを全国へ広めました。それが有名な大津そろばんであつたのが珠算が発達した大きな力となりました。（大津そろばん顕彰碑の碑文）

<日 時>
平成 21 年 9 月 19 日(土) 11:00～16:30
9 月 20 日(日) 10:00～16:30

<会 場>
大津百町館
(大津市ナカマチ商店街丸屋町)
昔の大津そろばんやそろばん神輿、資料を展示
《入場無料》

百町館 講演会「大津そろばんのお話」
日時:9月19日(土)、20日(日) 13:30～15:30
(2日間開催)
講師:元大津商業高校教諭 全球珠算教育連盟支部前支部長
加藤雅之先生
《参加無料》 定員:先着 30 名様

そろばん教室開催
日時:9月20日(日) 10:30～12:00
場所:まちなか交流館(ナカマチ商店街丸屋町)
定員:先着 30 名様(初心者、小学生対象)
※ そろばん、教材は用意します、
フラッシュ暗算も行います。
《参加無料》 皆様の参加をお待ちしております。



毎年4月29日三井寺観音堂で開催

参加申込・問い合わせ先
「大津まちなかもりあげ隊」 鈴木道弘
E-mail:sk120511@mx.scn.tv FAX:077-564-0918 携帯:090-1221-6544
※参加申込は氏名、連絡先をご記入の上、E-mail または FAX にてお願いします。

主催/おうみ未来塾 10 期生「大津まちなかもりあげ隊」
後援/(社)全国珠算教育連盟滋賀県支部
後援/大津市、大津市教育委員会

大津そろばんまつり取材



【目的】

- 大津が発祥のそろばん文化の伝承
- 町家の活用
- そろばん文化を通して商店街活性化へ



大津そろばん

- ◆ 全国珠算教育連盟滋賀県支部へ協力依頼
講演会の講師の紹介
そろばん教室教師、教材の提供
展示品の借用
- ◆ 案内チラシの作成
商店街、各方面への広報活動を展開

大津まちなかもりあげ隊

「大津そろばんに親しむ会」開催
 9月19日、20日 大津百町館において
 「そろばん教室」20日 まちなか交流館において



そろばん展示

- ・ 「そろばん教室」を含め両日で約80名の方が参加
- ・ 地域の方々が「大津そろばん」に興味と関心を持たれている
- ・ 「そろばん教室」では先生方の熱心な教え方から、そろばんの楽しさが伝えられた
- ・ アンケートから多くの方がそろばんの素晴らしさを感じ、満足との回答
- ・ 地元の商店街の参加者が少ないのが残念であった



講演会「大津そろばんのお話」



そろばん教室

あいあい 滋賀 第452号

あいあい 滋賀 販売部
 〒520-0011 大津市東 1-1-1 大津百町館
 電話 077-010-9303
 FAX 077-010-9305
 Eメール aiaia@n111-111.com

そろばんを初めてはじく
 *発祥地。大津のまちなか交流館で教室

「二十一年十一月二十一日」大津百町館にて開催された「大津そろばんに親しむ会」の様子が、あいあい 滋賀 第452号に掲載されました。この機会に、大津そろばんの魅力を多くの方に伝えることができました。また、大津百町館での開催から、大津の歴史や伝統文化等の魅力が伝えられた。また、大津百町館での開催から、大津の歴史や伝統文化等の魅力が伝えられた。また、大津百町館での開催から、大津の歴史や伝統文化等の魅力が伝えられた。

新聞にて報道

「大津そろばんに親しむ会」を開催して

- ・ 企画段階より、全国珠算教育連盟、商店街、「大津の町家を考える会」を始め地域の方々の皆様のご協力により開催出来ました。この繋がりを大切にこれからの活動に活かして行きたい。
- ・ 大津百町館を会場にしたことから、大津の歴史や伝統文化等の魅力が伝えられた。
- ・ チンドン屋のパレードや大津市広報他多方面への広報活動に努めたが、参加者を集めることの難しさを感じた。
- ・ 商店街に賑わいを取り戻すには、お店の方々との親密なお付き合いから、継続的な取り組みの必要を感じた。
- ・ その後も大津百町館に「大津そろばん」についての写真や資料を置き「大津そろばん」についてのお話をさせて頂いています。

大津まちなかもりあげ隊

お店のこだわりやお薦め品を情報発信

【大津市市民活動センターHP「浜大津お店再発見」のお店の取材、紹介活動】



おつけもの 八百与



海鮮市場 摩季詩



平井酒造



湖魚 タニムメ水産



鮎ずし 阪本屋



銘茶 中川誠盛堂



九重味噌



こむぎ工房 くりいむぱん



お食事処 津の清

大津市市民活動センターHP「浜大津お店再発見」のスクリーンショット。ウェブサイトのデザイン、メニュー、お問い合わせフォーム、および「おススメ情報掲示板」のスクリーンショットが含まれています。

おススメ情報掲示板

【おススメ情報】
 『浜大津お店再発見』は、おなじみ浜大津の活動グループである、大津まちなかもりあげ隊が、浜大津周辺のお店を一つ一つ歩いて取材を行い、記事を発信しています。浜大津の商店街の再生に取り組む、大津まちなかもりあげ隊に賛同のある方は、下記のメールアドレスまでご連絡下さい。
 0120311@centoy

浜大津のお店マップは、おなじみ浜大津の活動グループである、大津まちなかもりあげ隊が、浜大津周辺のお店を一つ一つ歩いて取材を行い、記事を発信しています。浜大津の商店街の再生に取り組む、大津まちなかもりあげ隊に賛同のある方は、下記のメールアドレスまでご連絡下さい。
 0120311@centoy

浜大津のお店マップは、おなじみ浜大津の活動グループである、大津まちなかもりあげ隊が、浜大津周辺のお店を一つ一つ歩いて取材を行い、記事を発信しています。浜大津の商店街の再生に取り組む、大津まちなかもりあげ隊に賛同のある方は、下記のメールアドレスまでご連絡下さい。
 0120311@centoy

浜大津のお店マップは、おなじみ浜大津の活動グループである、大津まちなかもりあげ隊が、浜大津周辺のお店を一つ一つ歩いて取材を行い、記事を発信しています。浜大津の商店街の再生に取り組む、大津まちなかもりあげ隊に賛同のある方は、下記のメールアドレスまでご連絡下さい。
 0120311@centoy

浜大津のお店マップは、おなじみ浜大津の活動グループである、大津まちなかもりあげ隊が、浜大津周辺のお店を一つ一つ歩いて取材を行い、記事を発信しています。浜大津の商店街の再生に取り組む、大津まちなかもりあげ隊に賛同のある方は、下記のメールアドレスまでご連絡下さい。
 0120311@centoy



比叡ゆば ゆば八



大津菓子 鶴里堂



和菓子 寶堂



和菓子 藤屋内匠



三井寺力餅



大津絵の店

大津まちなかもりあげ隊

～活動に取り組んで(まとめ)～

大津の魅力

市民活動団体・行政・観光協会の交流イベント



- ・朝市・フリーマーケットの開催
 - ・歳末時等の大売出し
 - ・一部店舗では文化催事の開催
 - ・テレビ取材を受け行列するお店あり
 - ・行政・観光協会と連携してイベント開催
大津まちなか灯ウォーク
大津まちなか食ウォーク
- ☆元気に頑張っているお店も誕生！！

今後の取り組みと課題

- ・商店街の魅力の発信
- ・店主との交流・情報交換
- ・こだわり・お宝の情報発信
- ・地域生産者との連携
- ・伝統文化を活かしたイベントの企画
- ・出会い・発見まちなかウォーキングの企画

大津まちなかもりあげ隊



商店街に賑わいを取り戻せるようこれからも頑張ります！！

個人からのメッセージ

第10期生マップ

(市町名は入塾(2008年春)時点のもの)



氏名：^{あんど う}安藤 ^{かず と}和人

活動グループ：「仕事人と語ろう！」グループ



Q. あなたのイメージしている地域プロデューサーとはどのようなものですか？

プロデュースしようとする地域を愛し、そこに溶け込み、そこに住む人のことを良く知り、地域の課題を洗い出し、その解決に向けて、地域の人々をつなぐ人。

Q. 未来塾での講義や活動等で心に残ったものは何ですか？

グループ活動で自分の職業を初めて子どもたちの前で語ったこと。めちゃくちゃ緊張しました。

Q. 未来塾での2年間であなたはどのように変わりましたか？

滋賀の中にたくさんの熱い人がいること知りました。自分がいかに中途半端かを思い知りました。

「下手糞の 上級者への 道のりは 己が下手さを 知りて一歩目」

Q. 2年目のグループ活動であなたは何を学んだと感じていますか？

仕事人と語ろうグループでは、多くの人に出会いました。これは県内にかかわらず、様々な地域の人でしたが、すべて子どもの健全育成には、一役買いたいという人が多く人材の豊富さを感じました。

Q. 卒塾後これからどうしようと考えていますか？

仕事人と語ろうグループを続けたいと思っています。

氏 名：^{いけだ}池田 ^{よしこ}佳子

活動グループ： おうみこっとな夢つむぎ



Q. あなたのイメージしている地域プロデューサーとはどのようなものですか？

人から頼りにされ、イベント企画から人、予算を把握して運営できる人。
「あんなことやこんなことをできる人知らない？」もしくは「こんなことできる場所ないかな？」と相談されて、「それならあんな人、こんな人がいるから紹介するね。」とか「こんな所があるから利用してみたら？」とすすめる仲介人。

Q. 未来塾での講義や活動等で心に残ったものは何ですか？

振り返るとそれぞれ思い出深く、沢山の経験をさせて頂いたと感じます。
あえていうなら 最初の田舎体験でしょうか。緊張のドキドキでの参加でしたが、10期生の仲間達のお人柄にふれることができ、楽しくスタートを切ることができました。

初めて体験と、食事でのムードが和やかだったと思います。それからは、塾の参加が楽しみでした。学んだ事も経験をしたことも、知り合いが増えた事も私の大切な財産です。

Q. 未来塾での2年間であなたはどのように変わりましたか？

入塾した時とは、思いも生活も様変わりしてしまい自分でもびっくりしています。
でも、良い変化でこの未来塾が、人生の転機のきっかけですね。

2年前は、卒業したらまたこの立ち位置に帰ると思っていたのに、いざ年月がたつと、全然違う場所に立っていて、今までになかった新しい道が開け進んで行く感じです。

Q. 2年目のグループ活動であなたは何を学んだと感じていますか？

人の得て不得手を補いあい、力合わせれば大きな力になること。
何もないところのひとしづくから、大きな波紋ができ波までおこす事が可能と知った。

Q. 卒業後これからどうしようと考えていますか？

綿作りで、趣味と実益を兼ねて、生活の一部にしたい。
沢山の人の、伝統として伝え広めていきたい。

タイトル： 自分らしく

公務員で入塾しましたが、退職したので民間人になりました。しかし辞めてからの方が、何かと相談されるようになった気がします。どこにしようが、自分が自分らしくある為に、前を向いて進みたいと思います。

氏名： いしむら よしのり
石村 嘉規

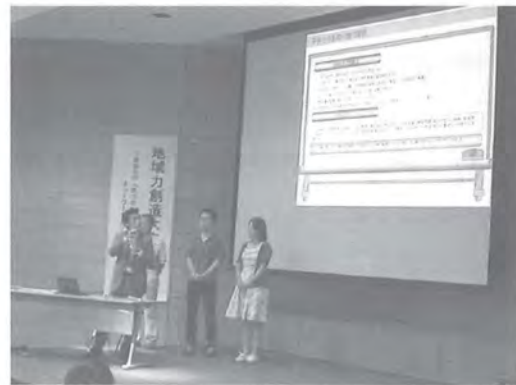
活動グループ： 「仕事人と語ろう！」グループ



タイトル：自己紹介

私は、守山市にてコンサルタントを経営しております。元来NPOやNGO等には非常に関心が高く、常々参加や立ち上げを考えておりました。特技と言うには、おかしいかもしれませんが、企画や営業は、この部類だと思います。

立命館大学で行われた「地域力創造大交流祭(展示発表の部)」で「仕事人と語ろう！」グループの会議時の状況と発表された時のスナップです。



氏名：^{いちかわ}市川 ^{えいいち}詠一

活動グループ：おうみこっとな夢つむぎ



Q. あなたのイメージしている地域プロデューサーとはどのようなものですか？

地域で生まれ育って、地域をよく知りつくし、地域のために汗をかける人。「踊る阿呆に見る阿呆」ではなく、「仕掛ける阿呆」のこと。

Q. 未来塾での2年間であなたはどのように変わりましたか？

地域プロデューサーという言葉の響きのカッコよさにあこがれて、入塾したものの、結局、「自分」は何も変わっていない。変わらなくて、ヨカッタかも。

Q. 2年目のグループ活動であなたは何を学んだと感じていますか？

2年目は、ほとんど活動に参加できず、他のメンバーに迷惑をかけっぱなし。この2年間で見てきたのは、滋賀に馴染めずにいる「自分」と、その「自分」はプロデューサーって柄じゃない、ということだけ。

Q. 卒塾後これからどうしようと考えていますか？

地域とのかかわり方として、地域プロデューサーを目標にするのではなく、「自分」にできることで「地域を元気」にすることを考えている。

長期的な目標として考えているのは、近江八幡という地域にこだわって、劇団、芸能集団あるいはパフォーマンス集団を立ち上げ、人様に楽しんでもらえるようになるまで「芸」と「自分」を磨きたいと思っている。

たちまちの目標というか、もうすでに動き始めているんだけど、長浜の歌舞伎・浄瑠璃三味線を勉強しつつ、劇団「異国幻燈舎」に暫定的に入団して芝居作りの基礎を修行している。

歌舞伎も芝居も、ボクが出る時は観に来てね！

あと、できる曲は片手で数えられるくらいだけど、三線・沖縄民謡も細々と続けている。

自分の性格を考えると、リーダーあるいはプロデューサーなんて柄じゃない。

自分は、「踊る阿呆」がいい。「踊る阿呆」になりたい。

氏名：^{うらたに}浦谷 ^{まさと}誠人

活動グループ：元気の農家をつくり隊



Q. あなたのイメージしている地域プロデューサーとはどのようなものですか？

生活のうえで困ることや悩みを大きくまとめ、広い視点・分野から解決を目指す人

Q. 未来塾での2年間であなたはどのように変わりましたか？

たくさんの方々のお話を聞いて楽しかった。

個々の考えや思うことの違いをまとめて結果に出すのは困難で楽しさなのかと思えました。

Q. 2年目のグループ活動であなたは何を学んだと感じていますか？

個人的な理由で、参加していませんが活動報告を拝見させていただき、どのグループの活動も素晴らしくて、大変な努力があったのだろうなあ〜と各グループさんの熱意にすごく感動しました。

Q. 卒塾後これからどうしようと考えていますか？

特に何も考えていませんが、楽しんで今後も過ごしたいです。

氏名：^{かんしょ}甘庶 ^{ひろゆき}裕之

活動グループ：元氣な農家をつくり隊



Q. あなたのイメージしている地域プロデューサーとはどのようなものですか？

地域が抱える社会的な問題を発見し、「こうすれば問題解決が出来る？」解決策を考え、それを実現するために、地域の知恵を活かし、地域の住民と共に、解決策の実践を図れる、マネジメント能力を持った人。其の為には地域の事を知る。徹底的に知り尽くす事が絶対条件となると思います。

Q. 未来塾での講義や活動等で心に残ったものは何ですか？

各先生方の分かりやすく熱意あふれた講義と講評、現地研修・活動においては夫々特徴があり大変良かった。中でも1年目の合宿講義「朽木針畑の現地研修」でした。大自然と共生する暮らし、現地に入る意義、地域再生のために力強く活動している様子等を現地で学べた事です。いまだ鮮明に脳裏に焼付いております。

Q. 未来塾での2年間であなたはどのように変わりましたか？

世代や背景が違う多くの仲間と知り合うことが出来たが、活動は能動的で、縛りが無く活動することの難しさを思い知らされた。今後の活動において、意見交換ではお互いの話を良く聞き調整を図り、統一行動が出来るグループ作りをする事が大切。そして様々な考えの人と出会い、私の 他人に対する寛容な心と認識が、少し広がった様な気がします。

Q. 2年目のグループ活動であなたは何を学んだと感じていますか？

“地域に入り、地域で学び、地域が甦る”活動をするため、農業主体の地域で昔の元気を取り戻すお手伝をした。地域特有の風土があり、短期間で実る程の成果を残せなかったが、次につなげる種蒔は出来たと思います。

Q. 卒塾後これからどうしようと考えていますか？

“終の棲家である地域”で「安全・安心・楽しく生活」出来る地域づくりに貢献したい。家族組織が崩壊している状況の中で、地域住民が家族、無縁の地域住民のつながりが、血縁同様に大事に成って来ました。価値観が違い異なるしがらみを持った、住民一人一人が、他人の事をおもいやり、係わって行く事により、家族となる「地域のグローバル家族」の実現に向けた活動を目指します。

氏 名： きたがわ **北川** ひさかず **久和**

活動グループ： **おうみこっとな夢つむぎ**



Q. あなたのイメージしている地域プロデューサーとはどのようなものですか？

地域の課題・問題点を見つけ、その課題・問題点の解決のため、自ら考え行動するとともに、地域の人たちはもちろん、様々な人たちとのネットワークによって、活動を進めていける人ではないかと思います。

Q. 未来塾での講義や活動等で心に残ったものは何ですか？

講義では、1泊2日ということもあり、朽木での合宿講義と「未来塾」の日本酒も出てきた夜の交流会、そして翌日の湖西エクスカージョン in 高島です。また、私たち湖北会が企画した「花しょうぶ通り商店街」のフィールドワークと迫間さん、団さんのトークを盛り込んだサブ講義です。

Q. 未来塾での2年間であなたはどのように変わりましたか？

滋賀を愛し、深い情熱も持って活動されている方々が各地に沢山いらっしゃることを実感し、その方々のつながりを学び、自分もその一人として活動したいと思う気持ちが強くなりました。

Q. 2年目のグループ活動であなたは何を学んだと感じていますか？

最初は、別のグループ活動を提案したのですが、賛同者が少なく、今のグループに入りましたが、活動を続けていくうちにのめり込んでしまっています。そして、グループの皆さんの積極的な行動についていきつつ、自分の役割を探そうとしています。

やっていて良かったと思っていることは、我々の活動を作業所の方々が大変喜んでいただき、段々その輪が大きくなっているのを実感できているところです。

Q. 卒塾後これからどうしようと考えていますか？

この輪をもっと大きく、広げていきたいと思っています。そして、目標とする製品化や販売につなげていき、作業所の資金確保の方策の一つになればと考えています。

そして、未来塾で学んだことやグループ活動の成果を、他の活動にも活かしていきたいと考えています。

氏名：こなか **小中** まさはる **政治**

活動グループ：「仕事人と語ろう！」グループ



Q. あなたのイメージしている地域プロデューサーとはどのようなものですか？

地域資源を発掘、創出し、それらにより地域を活性化させることを企画し、率先して行動している人

Q. 未来塾での講義や活動等で心に残ったものは何ですか？

伊吹での岡崎先生の講義が最も印象に残っています。

Q. 未来塾での2年間であなたはどのように変わりましたか？

「こんなことが市民活動で出来たらいいなあ」と思い描いていたことが現実のものとなり、更に実現に向けて行動するようになった。

Q. 2年目のグループ活動であなたは何を学んだと感じていますか？

利益が得られない活動を続けていくことの難しさ、ですね。

Q. 卒塾後これからどうしようと考えていますか？

仕事人Gの活動を細くとも長く継続していきたいと考えています。

氏名： ^さ ^さ ^き 佐々木 ^{せい} ^き 誠樹

活動グループ： 大津まちなかもりあげ隊
元気な農家をつくり隊



Q. 未来塾での講義や活動等で心に残ったものは何ですか？

1年目の夏、朽木での合宿と安曇川の針江地区・藤樹の里見学は印象に残っています。2年目のグループ活動は2つのグループに所属していたためお陰で土日の方が忙しいことがありましたが、大津の方は個人別に担当テーマが分かっていたので比較的マイペースでやれてやり易かったように感じました。何といたってもお客様や対応してくれる人の笑顔・元気なやりとりが一番（活動の支え）でした。

Q. 2年目のグループ活動であなたは何を学んだと感じていますか？

コミュニケーションの重要性を再確認したように感じます。

企業人時代はある程度職制・職権で説得させる事が可能なこともありました。しかし地域社会の中では強引なことは反発を受け結局は失敗の原因になりかねないため、地域住民が主人公であるとの認識で対等な関係を意識して、相互の状況を理解するため充分に話し合わなければと思います。

ただ、話すことが苦手な人や、こちらの意図に沿って応えてくれない人等もいたりして、このような人達には「効率を度外視する」位の気持ちが必要のようですが、そのような局面になると自分の精神状態が不安定になっているなど感じています。

結局、コミュニケーションを円滑にするために、自分には経験を積んで慣れて対応の幅を増やすことが最も重要そうです。

Q. 卒塾後これからどうしようと考えていますか？

在塾時の担当グループ活動テーマが未完であり、しばらく（数ヶ月程度？）続けることになりそうです。もし、この期間中に入塾当時に考えていた「生ゴミ活用」についてその農法実践者と交流できれば私の地元地域への普及（市民農園レベル）を模索したいと考えています。

タイトル：県内のあちこちに行けて、ありがとうございました。

私は滋賀県出身でないことや車を持っていないこと等で県内は知らない所だけです。私が入塾動機の一つに「県内のあちこちに行けそうだから」という単純・幼稚なものがありましたが、この目的は達せられたと思います。現地を実際に見ることは本当に重要なことなので、色々企画された事務局および関係者の皆様本当にありがとうございました。

氏名：^{さわ}澤 ^えとし江

活動グループ： おうみこっとな夢つむぎ



Q. あなたのイメージしている地域プロデューサーとはどのようなものですか？

地域の身近な現場で活躍されている方々、プロ・アマを問わず多くの人が集まり、地域や分野を超えて知恵を出し、結び付けていく場づくりをすることです。

Q. 未来塾での2年間であなたはどのように変わりましたか？

井の中のかわずが、琵琶湖に片足を浸けました。

Q. 2年目のグループ活動であなたは何を学んだと感じていますか？

お会いした人それぞれが現場で問題を抱えています。

異なる仕事や活動の、横のつながりができると、問題の断片が少し解決します。

その後、少しの切れ端がネットワークを生み出すことを学びました。

Q. 卒塾後これからどうしようと考えていますか？

グループ活動と、活動に関連した商店を同時に進めていきます。

第一次産業から第二・第三産業と目の届くモノ作りを目指して福祉施設や、

地域への仕事場の提供、伝統技術・モノづくりを教育の現場へ、

地元の環境・伝統的な暮らしを提供することを職業として続けたいと思っています。

おうみこっとな



夢つむぎ

氏 名： ^{しば} 芝 ^{こういち} 浩市

活動グループ： おうみこっとな夢つむぎ



Q. あなたのイメージしている地域プロデューサーとはどのようなものですか？

地域の課題を／地域の人たちが／地域の良さ を生かして改善・解決できるように
段取りし、後押しする（ゴリ押しではない）ことができる人

Q. 未来塾での講義や活動等で心に残ったものは何ですか？

岸田先生のリーダーシップ講義は大事な「気づき」につながる興味深いものでした。
そのときの私自身には実施した自己評価の結果がショックでしたが…。

ほかに思い出深いのは1年目の夏、朽木村で行った合宿でのこと。朝、散歩した草地にヤマビルが多くて驚きました。近年冬の積雪が減り、鹿の生存率が上がったため頭数が増え、活動範囲が広がったためだそうです。地球温暖化の影響で生態系に変化が生じていることを実感しました。

Q. 未来塾での2年間であなたはどのように変わりましたか？

個人的には退職、再就職活動などもあり、人生の節目と重なりましたが、多くの方とお話して「生き方」と「社会」を以前より深く考えるようになりました。自分自身を客観的に見ることも少しできるようになったと思います。

Q. 2年目のグループ活動であなたは何を学んだと感じていますか？

市民活動は『人と人とのつながり』が大切であること。

『人と人とのつながり』はそれを構築するにも、保持するにも『心遣い』が必要であること。その『心遣い』を「苦勞」ではなく「喜び」と思える人が、『人を動かすこと』ができるということを学びました。

グループメンバーやお世話になった皆さまに感謝しています。

Q. 卒塾後これからどうしようと考えていますか？

産業革命以後150年、世の中は石炭や石油を浪費しながらどんどん便利になってきたのですが、それとひきかえにかけがえのない地球環境を悪化させてしまいました。

私たち現世代の人間が将来世代に対する責任を果たすには、資源と環境、両面において社会の仕組みを変えていく必要があります。私は卒塾後この分野で社会貢献に取り組みたいと思います。

氏 名：^{すずき}鈴木 ^{みちひろ}道弘

活動グループ： 大津まちなかもりあげ隊
元気な農家をつくり隊



Q. あなたのイメージしている地域プロデューサーとはどのようなものですか？

地域の方々と一緒に考え、一緒に楽しみ、一緒に汗を掻きながら地域の素晴らしさ(魅力)を見つけ、伝え、繋げていくことかな～

改めて「地域プロデューサー」とかしまるのは嫌いですが・・・。

Q. 未来塾での講義や活動等で心に残ったものは何ですか？

大津のまちを歩き、新しい発見や楽しい出会いに巡り会えました。特に伝統文化や技能を守り商売されているお店があることに感動しました。

また商店街では、特に日曜日にシャッターを降ろした店が多くあり、後継者難他いろいろと問題を抱えていることを知りました。

Q. 未来塾での2年間であなたはどのように変わりましたか？

大津でも多くの方々と知り合い、ネットワークが広がったことかな～
それと、物忘れがひどくなりましたが～

Q. 2年目のグループ活動であなたは何を学んだと感じていますか？

ある店主さんから「商店街の活性化」との言葉に反発を受けました。行政や色々な活動団体が商店街の活性化に向け取り組みを始めているが、なかなかその思いが伝わってないように思われ、もっと店主さんと一緒になって汗を掻く必要を感じました。

Q. 卒塾後これからどうしようと考えていますか？

この活動を通じて、多くの発見や出会いがあり、地域の方々にはお世話になり、ご協力を頂きました。

この商店街の魅力や、多くの方々へ発信し、商店街と行政や市民活動団体との間をつなげる役割を果たしたいと思います。

タイトル：「大津まちなかウォーキング」のおすすめ

大津市内には京阪電車の石坂線が走っており、琵琶湖を始め、石山寺や坂本他名所旧跡を訪ねながら、大津の商店街を歩く楽しさや歴史・伝統文化を味わって頂きたいと思います。

氏名： つねおか よしひろ
恒岡 善博

活動グループ： **大津まちなかもりあげ隊**



Q. あなたのイメージしている地域プロデューサーとはどのようなものですか？

地域が抱えている課題や持っている資源を見つけ、課題解決や地域の活性化に向けて、賛同者を募り体制を作り活動すること

Q. 未来塾での講義や活動等で心に残ったものは何ですか？

第4講の「あいとうエコプラザ菜の花館」における、藤井絢子さんの菜の花プロジェクトの歴史や仕組み、菜の花プロジェクトの広がりや目指すもの等の講義を聞いて感動した。その後、施設を見学して菜の花プロジェクトの今日までの藤井さんの活動に改めて納得した。

Q. 2年目のグループ活動であなたは何を学んだと感じていますか？

私としては満足のいく活動はできなかったが、活動グループのメンバーの個性や特技を生かし協力すれば、自分一人では到底できないことが実現することを体験した。

また、商店街の活性化は、予想はしていたが簡単ではなく、大きな労力と長い時間が必要であることを改めて痛感した。

Q. 卒塾後これからどうしようと考えていますか？

商店街の活性化に向けてほんの一部を取り組んだところなので、賛同者や協力者を募りできる範囲でもう少し続けてみたいと考えている。

氏名：^{てらだ}寺田 ^{ひでゆき}英幸

活動グループ： 大津まちなかもりあげ隊



Q. あなたのイメージしている地域プロデューサーとはどのようなものですか？

地域活動を通じて、1人ひとりとの「絆」を築き暮らしの平安を推進していく人

Q. 未来塾での講義や活動等で心に残ったものは何ですか？

1年目の米原市の「大門坂荘」の講義（フィールドワーク）（伊吹の源流を考える会）
（地元食材の田舎料理）

2年目の「大津まちなかもりあげ隊」

Q. 未来塾での2年間であなたはどのように変わりましたか？

「大津まちなかもりあげ隊」

自主的なフィールドワーク

Q. 2年目のグループ活動であなたは何を学んだと感じていますか？

大津商店街の人々の気持ち、町づくりの思いを共通の課題から聞き出せたこと

Q. 卒塾後これからどうしようと考えていますか？

地域活動に対して責任ある行動をし、他人のためそして自分のために役立ちたい。

氏名：^{なかしま} **中島** ^{ひでき} **英喜**

活動グループ：**元気な農家をつくり隊**



Q. あなたのイメージしている地域プロデューサーとはどのようなものですか？

風であり、水でありたい。そこに存在することに何ら不自然ではなく、当たり前ゆえに無いと寂しくなる様な存在となれればと思う。

その風土や土地柄の良さを生かしながら、より自らを好きになっていただけるような活動ができれば幸いです。

Q. 未来塾での講義や活動等で心に残ったものは何ですか？

入塾式での日高先生の言葉が新鮮でした。その言葉を胸に抱いて現在に至ります。

Q. 卒塾後これからどうしようと考えていますか？

入塾当初に考えていた活動と1年目に学び感じた中から考えた活動をじっくりと練り上げていこうと思っています。

タイトル：それぞれの正義・大切なもの

社会人となり、それまでとは違う世界の中で、それぞれの正義があり、価値観があることを感じてはいました。

今回未来塾に参加して、今まで生きてこられた環境の違う方々とお会いして、より価値観の相違やそれぞれの正義を感じました。

今後の日本社会では、自治会活動に始まり、いろんな場でそうした価値観の違う方々と共にいろいろなミッションをさせていただくことになると思いますが、それぞれの方が大切に想うものに敬意を払い、やさしさのもとに活動ができればと考えております。

そこにある風土にやさしく接することで、その土地の素敵どころが見えてくる、そこにおられる人々の素敵な技が見えてくる。

滋賀という類まれなき環境に育ったことに感謝しつつ、その粋を滋賀や日本に囚われないような生き方をしてゆきたいと思います。

今回、2年目の活動は“こだわり”というキーワードが数多く出ておりましたが、私自身は“こだわらない、あるがまま”を座右の銘として、ゆるりと生きてゆこうと思っております。

それぞれの正義が噛みあって、みんなのミッションになるような活動ができることで、皆の大切なものが守られていくことを願う次第です。

氏 名：^{なか た} **中田** ^{え り か} **恵理香**

活動グループ：「仕事人と語ろう！」グループ



タイトル：自己紹介

「地域で何か活動する」数年前までの自分には思いつかなかった言葉です。

でも今は常に「何か」できないかを考えながら毎日仕事をしています。

「あの人に相談したら、何かええアイデアをくれるんちゃう？」そんな人になるのが目標です。どうぞよろしくをお願いします。

入塾時の研修と「仕事人と語ろう！」グループの会議状況のスナップです。



氏 名：なかにし 中西 まさゆき 雅幸

活動グループ： 元気な農家をつくり隊



タイトル：未来塾の活動振り返りと将来展望

思い返せば約2年前・・・未来塾10期生として「元気な農家をつくり隊」として活動を始めた事を懐かしく思います。

その理由としては、僕の実家は（兼業）農家であり、僕自身が住んでいる地域の農業経営の課題に直面してきた経緯があって、その課題を解決する為の農業振興や地産地消、これから先の農業政策には大変興味があったからです。

しかしながら、同じ時期に僕自身が本業としてNPO法人を立ち上げたばかりの状況で、未来塾の活動に十分に専念することが出来ず、他のメンバーに迷惑をかけてしまう事などが多くて、申し訳なくとても残念でした。

この様ななかなか活動に参加出来ない状況が続く中でも、リーダーの西山さんが僕を頼って頂いた事は大変うれしく感じた事を思い出します。

農業経営を発展させて行く中で、IT化は欠かすことが出来ない要素であって、その部分で前職（システムエンジニア）で得たノウハウやスキルを活かし、バーコードを活用した農産物の販売管理ソフトの構築を手がけられた事は大変良い経験になりました。

もちろん、知識のある方であれば容易い事ですし、この手のソフトは多く存在するのですが、限られた資源の中で使い手である雨降野の皆さんに合わせたシステムを組み合わるのは案外難しいものです。

今後は、西山さんをはじめとして雨降野の皆さん自身が上手く利活用してもらえる事を期待しながら、僕も継続的に支援して行きたいと思っています。

近い将来には、おうみ未来塾で得た人脈や経験を活かして、地元の近江八幡市や滋賀県でも活動拠点を構えて積極的に活動して行きたいなあ・・・なんて夢を描きつつ、僕自身が考える「地域プロデューサー」を目指して日々精進して行きたいと思っています。

氏名： にしやま **西山** ふみたか **文隆**

活動グループ： **元気な農家をつくり隊**



Q. あなたのイメージしている地域プロデューサーとはどのようなものですか？

地域の課題を掘り起こし、地域資源を有効に活用しながら課題解決に取り組むシステムの構築とそれを支援する人材育成。

地域プロデューサーは、時として先頭に立つこともあるが、原則として影武者であるのが望ましいと思う。

Q. 未来塾での講義や活動等で心に残ったものは何ですか？

県内各地で取り組まれている先進的事例の研修。

Q. 未来塾での2年間であなたはどのように変わりましたか？

グリーンツーリズム関係で活動しておられる方々との親交により幅広い知識が得られた。

Q. 2年目のグループ活動であなたは何を学んだと感じていますか？

意思疎通の難しさ……………地域内及びグループ内での人間関係

体験農園の問題点……………播種、苗の移植、栽培、施肥、除草、収穫、選別、整地という年間通じての農作業に関し、経験不足の方々への助言の難しさ。

実践活動と成果発表の乖離……………地味な実践活動の結晶が成果につながると思うのだが。大学等研究機関での活動とは違うと思う。発表に振り回されているように感じる。

Q. 卒塾後これからどうしようと考えていますか？

グリーンツーリズム活動の推進…オーナー制農園、農家民宿の実施
直売活動の拡充

集落の活性化活動の推進……………豊かさ、美しさ、楽しさ、安心・安全な村づくり。
地域資源の発掘と活用、若手を中心にした人材育成。

趣味を生かした青少年の育成……………子供囲碁教室の開設、親子で取り組む環境学習。

地域にあった特産品の開発……………地場野菜類、加工品等を集落の有志で取り組む。

- ・町の補助事業で給付されたハウスの活用
- ・集落及び町の加工所の活用



氏 名：^{ふじの}藤野 ^こさち子

活動グループ： おうちこっとなん夢つむぎ



Q. あなたのイメージしている地域プロデューサーとはどのようなものですか？

リーダーシップをとり、個性を発揮しながらも相手と同じ目線で対応出来る力を持ち合わせている人

まずは人から信頼・信用されるような資質を持ち、周囲と協調しあい地域の宝を発掘し、“新しい動き”を出せる人

Q. 未来塾での講義や活動等で心に残ったものは何ですか？

人との出会いやふれあいです。熱い思いを持った人々、やさしい人々、個性あふれる人々が集まっておられて刺激を受けました。

未来塾の関連の講演であったと思いますが

横石知二さんの講演です。自分は偉いんじゃない、周囲の人を持ち上げる……

“謙虚のリュックを背負う”この言葉を聞いて深く感じるものがありました。

リーダーは「各人その人の出番を作ってやる、その事が大事」「リーダーだけうけてもだめ！！」「個々の人を輝かせること」等、今も心に残っています。

Q. 未来塾での2年間であなたはどのように変わりましたか？

なんだか忙しくて夢中で過ごしてきたというのが本音です。人との出会いは学びになると思っているので出会った人々に感謝です。

Q. 2年目のグループ活動であなたは何を学んだと感じていますか？

2年目は思うように活動に参加できなかったのが残念という気持ちと反省の気持ちと複雑な心境です。そんな心の揺れや心の動きをせめてこれからの地域活動に仲間理解やその他の面でもプラスにつなげていけたらいいなと考えています。

Q. 卒塾後これからどうしようと考えていますか？

地域でボランティア活動を続けてきた私にとって、より内容の向上を求めたくておうち未来塾を受講しました。今後も人と人が仲良く生きていく上で、生き甲斐や癒しとなるような活動の場所・憩いのスペース作り、そんな活動を継続していきたいと思います。

ありがとうございました

～ 未来塾の仲間に感謝・そして乾杯 ～



氏 名： まつばら ひろやす
松原 弘保

活動グループ： 「仕事人と語ろう！」グループ
元気な農家をつくり隊



Q. あなたのイメージしている地域プロデューサーとはどのようなものですか？

地域の課題を発見し、課題解決のために、今までに作り上げたネットワークを活用するとともに地域の人と協力して、対策を策定し、活動や 事業を起こすことのできる人。

Q. 未来塾での講義や活動等で心に残ったものは何ですか？

- ①「仕事人と語ろう！」G. の初事業として、彦根南中学校で実践できたこと。
その結果、学生から「お話を聴いて、希望が持てました。頑張ります。」と言ってもらえたことが、うれしく、心に残りました。
- ②G. メンバーとこれからも協力し合えると確信を得たことです。

Q. 未来塾での2年間であなたはどのように変わりましたか？

過去の自分を振り返り、自分のやってきたことを反省するとともに、夢を実現したことに対する自信を持つことができました。
また、新たに「夢」を持つことができたことです。

Q. 2年目のグループ活動であなたは何を学んだと感じていますか？

- ①継続することの難しさ。
- ②塾生の気持ち、塾長、運営委員の先生方、事務局の皆さま、さらには「仕事人と語ろう！」G. の活動を通じて関わった人の気持ち、性は善であるということです。

Q. 卒塾後これからどうしようと考えていますか？

若者に、自分の将来について考えてもらい、「ゆめ」・「希望」を持ってもらえるよう仕掛け、若者も自分も目を輝かせたい。そのための活動を続けていきます。

タイトル：思うこと

期間中に、日高先生が鬼籍に入られたことは大変残念です。先生のことをよくご存じの知人からいろいろと情報を得ていました。卒塾後もいろいろとアドバイスを受けたいと思っていました。運営委員の先生から厳しいお言葉もいただいたりしましたが、感謝しています。事務局の皆さまにも感謝申し上げます。これからも相談にのってください。よろしく願い申し上げます。

氏 名： やましろ ち え こ
山城 智恵子

活動グループ： 「仕事人と語ろう！」グループ



Q. 未来塾での講義や活動等で心に残ったものは何ですか？

一年目の講義はたくさんの先生方のお話を聞きました。その中で、講師の先生が共通して言っていたことがあります。それは－「市民活動は楽しくないと続かない。」ということ。

私自身二年目の市民活動や、他のグループへの応援などで参加させてもらって感じたことです。

市民活動やボランティアは利益主義の活動ではありません。ですから、自分のしたことに対して対価が支払われることはありません。そんな中でもたくさんの問題が出てきて、それに挑戦していかなければなりません。そんな時、仕事であれば、“これは仕事、お金を稼ぐためのもの”と割り切って問題にむきあっていけるのかもしれませんが、市民活動をしていると“なんで報酬もないのに時間や手間やお金をかけてまでしなければいけないんだ！”と思うことはたくさんありました。

そんな中で続けていけるコツはやっぱり“楽しいこと”だと感じました。私の活動している「仕事人グループ」で、私が仕事人として子供たちに自分の仕事について話をしてきた時、仕事を説明するために作った紙芝居に子供たちから「分かりやすかった、面白かった。」と言葉をもらいました。たった10分のために5時間もかけて作った紙芝居でしたが“やってよかった！”とうれしさをかみ締めたのと同時に、これが、先生方が言っていた言葉の意味なんだと、感じました。

“楽しい！”がこれからも市民活動を続けていける原動力である、と思っています。

Q. 未来塾での2年間であなたはどのように変わりましたか？

私は、入塾時21歳でした。ほかの塾生は、私より一周り二周りも年上の方ばかり。知識も経験も豊富で、今まで市民活動やボランティアなどに関わったことのない私は、自分の立ち位置を見失っていました。「未経験者の私は意見をいうことすら間違っているのでは・・・」「私には何も出来ない。」と。2年目に入るとき退塾を考え、当時10期を担当して下さっていた鷹野さんに相談することもありました。

しかし、意識の高い皆さんに刺激を受け“せっかくの機会なのだから何もしないなんてもったいない！”と、自分の意見を積極的に発言したり、中間発表会での司会も挑戦することができました。今では、この2年間で“たくさんのはじめて”を経験でき、とても貴重な体験をさせてもらったと感謝の気持ちでいっぱいです。ここで出会えた人、学んだすべては私の生涯の大きな糧になる、と信じています。みなさん！本当に短い間でしたが、ありがとうございました！そして、これからもどうぞよろしく願います！

氏名：^{ふくもと} **福本** ^{こうぞう} **孝三**

活動グループ：**大津まちなかもりあげ隊**
元気な農家をつくり隊



一緒に活動した方々から思い出などを寄稿いただきました。

「大津まちなかもりあげ隊」のメンバー

鈴木さんから：「大津まちなかもりあげ隊」の仲間として誰よりも熱心に活動に取り組みました。それだけに、お亡くなりになったことは残念でなりません。フリマでは上手に販売されていたこと、大津そろばんや大津の伝統文化を調べ、大津の街を歩き回ったことが思い出されます。福本さんも一緒ならもっと素晴らしい活動が出来たのではと悔やまれます。

恒岡さんから：一昨年おうみ未来塾の塾生募集説明会に参加した折、申し込みに躊躇していた私に「一緒にやりましょう」と背中を押してくれたのが福本さんでした。また、福本さんは商店街ににぎわいを取り戻すためのお客を呼ぶには、ITを活用してお店を紹介し、PRすると大きな効果があると強く提案されました。この活動が私たちの後半のグループ活動の中心となり、可能な限り多くのお店の取材を行っています。

佐々木さんから：大津フリマでにこやかにお客様に説明されている時の顔、雨降野での農作業時しんどそうにしていた姿、発表会で時間不足で報告しきれなかった時の表情等色々思い出します。お世話になりありがとうございました。



「元気な農家をつくり隊」のメンバー

西山さんから：当集落で実施した「体験農園」に数回来られました。亡くなる1ヶ月ほど前に除草作業をしたとき、大変お疲れのようでしたので「ほちほち作業しましょう」と、声をかけさせていただきましたがその時、「体力がなくなってきたなー」と嘆いておられたことが印象として残ります。後から、あの時の過労が原因かとも思いました。

甘庶さんから：桜前線を追っかけてますか！？ 福本さんとは短いお付き合いでしたが、何故か深い印象が残っています。自己紹介で「日本1周旅行」を2回され、そして“淡々と語る喋り口”。活動が始まり、ある時パソコンの話題になり、福本さんの知識の広さにビックリ。私たちが主催する「高齢者のパソコン教室」に力添えの約束をお願いしました。昨年8月よりスタートして、素人講師で試行錯誤しながら、毎週2日実施しております。福本さん、きっと大空で我々の運営を見守ってくれてますよね。そして心地よい春風と共に、北上する「桜前線を追っかけて3回目の日本1周旅行」を楽しんでおられるのでしょうか！？

中島さんから：福本様を想うとき、講義の後の質問において“ちょっといいですかあ〜”の段を思い出します。厳しく、そして自分自身にもっと厳しく生きてこられた氏のことですので、きっと天の世界でも孤高の理想を説いておられることでしょう。2年目のグループ活動に於いては共に汗を流し、その後の熱い熱弁を思い出します。熱い思いで空のむこうでもPC教室をされているのでしょうか？ 共に語り、学べたことを大切にしたいと思います。

スタッフからのメッセージ

10 期生の皆さん みなさん ご縁を大切に

淡海ネットワークセンタースタッフ

浅野 令子

おうみ未来塾ではまだまだカバーしきれていない地域がたくさんあります。皆さんの持っている情報やネットワークを持ち寄って、滋賀県内のいろいろな地域を元気に魅力的にしてもらえると大いに期待しています。

京都新聞に西村恵信さんの『「縁」なくては「人」成り立たず』というエッセイが載っていましたので、その抜粋を、卒業される皆様へのはなむけの言葉に代えさせていただきます。

『「人間」という言葉がまた面白い。「人」という字だけでも、二人が支え合う形だということに、さらに「間」という字をくっつけて、人間が関係存在であることを示している。そう、人間は神仏と、自然と、自己自身と、そして社会との関係なしには生きられないのだから。

ところで現代のわれわれは、人間にとって本質的なこの「縁」ということに、あまりに無知になってしまっているように見える。これは根本的な人間失格ではないか。亡き森繁久彌さんが、「現代の家屋には、縁側さえなくなった」と嘆いたゆえんでもあろう。」

おうみ未来塾は、生涯学び続ける塾です。いつもでオフィスにお立ちよりください。お待ちしております。

気楽に元気で

淡海ネットワークセンタースタッフ

松尾 直幸

おうみ未来塾 10 期生のみなさん、卒業おめでとうございます。この2年間、講義やフィールドワーク、グループ活動など多くのプログラムがありましたが、常に熱心に、そして積極的に取り組んでおられた姿が目に見えます。

2年前に、淡海ネットワークセンター設立 10 年を記念して、それまでセンターが行ってきた事業や滋賀の市民活動に関わってこられた方などを紹介した本を編集しましたが、巻頭に日高敏隆先生に寄稿いただき、そこに書かれていた『気楽に元気で』を本のタイトルにしました。“滋賀の市民一人ひとりが、それぞれ楽しく元気に活躍していけば、滋賀は楽しく元気になる”という趣旨です。これから様々なカタチで地域活動やまちづくりに取り組んでいかれるみなさんも、この言葉を心の隅におきながらご活躍いただきたいと思います。

元気な未来のプロデューサーに

淡海ネットワークセンタースタッフ

富田 宗伸

おうみ未来塾 10 期生のみなさん、卒塾、心からおめでとうございます。

ダーウィンの言葉に、「もっとも強いものが生き残るのではなく、もっとも賢いものが生き延びるでもない。唯一生き残るのは、変化できるものである。」というのがあります。

最近久々にこの言葉を耳にし、思い出す機会がありました。そして、あっ！と思いました。この言葉、生物の進化論だけでなく、なんと「地域」の進化論も語っているんじゃないかと。

こんな想像が出てきたのも、みなさんの学校や農村や商店街、地域でのご活躍を聞かせていただけたおかげのように思います。

そして、「変化」といえば、9 期生の卒塾報告書のタイトルも「チェンジ=変化」でした。時代はまさに、そんなところに差しかかりはじめているのですね。

元気な地域の進化論。どうぞこれからも未来をプロデュースし続けていってください。

「ご卒塾おめでとうございます」

おうみ未来塾担当スタッフ

膽吹 憲吾

おうみ未来塾 10 期生の皆様、ご卒塾おめでとうございます。2 年間の塾活動お疲れ様でした。私は、1 年目は、ともにさせていただくことはできませんでしたが、皆様が、このおうみ未来塾で着実に成果を出されてきたことは、最後の発表会でよくわかりました。あの短い発表で、この 2 年間で繰り広げられた成長の人間ドラマを語り尽くすことは不可能に近いことだと思います。私は、運営委員の皆様から質疑など受けている皆様を見て、そうひしひしと感じました。

思えば、産まれたての赤ん坊が 2 年経てば、自分で立って遊んだり、話し出したりしているはずですよ。皆様の 2 年間もそれぐらい成長が見られる密度の濃い 2 年間だったと思います。

おうみこっとな夢つむぎ、仕事人と語ろう、元気な農家をつくり隊、大津まちなか盛り上げ隊と今回 4 つのグループ活動が生まれました。

それぞれ、これから 3 歳を迎えると思います。3 歳と言えば走ることもできだし、保育園で走ることが楽しくてしかたがないという年頃ではないかと思います。活動も同じで、きっと楽しくなっていく時期だと思います。もし、走るのに疲れたら、いつでも淡海ネットワークセンターで骨休めしてください！いつでも待ってます！

最後に、子育て経験もない私が、子供の成長に例えて書いてしまったことをお詫びします。自身も皆さんと同じく成長させていただいたので、人生を思い返しておりました。皆さんと共に成長させていただいた、このおうみ未来塾を大変うれしく思います。ありがとうございました。

未来塾を人生の大切な1ページに

淡海ネットワークセンタースタッフ
(未来塾1期生) 遠藤 恵子

10期生の皆さん卒塾おめでとうございます。2年間の塾活動はいかがでしたか。おうみ未来塾10期生という節目の年でしたが、日高先生や同期の福本さんがなくなられるという大きな出来事があり、事務局もとどった年となりました。

4つのグループ活動も順調とはいえないところもあったと思いますが、グループ運営は地域プロデューサーとしての大きな学びの場です。でもその仲間と培った日々はこれからの大きな財産になることでしょう。

各期にはいろいろな特徴がありますが、10期生の特徴は「きっちり」していると感じていました。多様な人たちの集まりがつくる独特の雰囲気からつくられるものかもしれませんが、10期生のきまじめに一生懸命な姿勢は忘れられないものになります。その特徴を活かしてご活躍されることを祈っています。

ロング・スロー・ディスタンスで

淡海ネットワークセンタースタッフ
坂下 靖子

おうみ未来塾10期生のみなさん、卒塾おめでとうございます。

未来塾の2年間で得られた人とのつながり、得てこられた仲間とのきずなを活かして、次の活動を展開していけることでしょう。

トライアスロンを続ける友人から「ロング・スロー・ディスタンス」という言葉を教えてもらいました。話しながら走れる程度の早さで長い距離を走る練習方法です。ついスピードを上げたくなる気持ちをぐっと抑えて、同じペースで走り続ける練習は、心肺機能を高め、持久力を鍛え、速く長く走れるようになるそうです。この練習、とっても気持ちいいのです。仲間と楽しく、景色を見ながら、そしてどこまでも走り続けられる気持ちになるのです。

活動を広げて行かれるなかでは、ついスピードを上げて走ってしまう時もあると思います。時々、「ロング・スロー・ディスタンス」なんて言葉も思い出してみてください。仲間とともに長く走り続けて行かれることをお祈りしています。



写真上段右から富田、坂下、遠藤、膽吹
写真下段右から松尾、森野、浅野

祝辞

淡海ネットワークセンタースタッフ

森野 泰起

10期生の皆さん、卒業おめでとうございます。卒業日の成果発表、この2年間の皆さんの真摯な取り組みとチームワークが伺われる立派な内容でした。未来塾でのいろいろな人との出会いや地域に入っている活動は、今後のみなさんの大きな財産です。

卒業は、地域プロデューサーへの第一歩。これからがほんとのスタートです。自己研鑽を積まれて、そして、多様な人々と出会いネットワークを広げられて、日高先生がおっしゃる「未来可能性」をそれぞれのフィールドで拓いていく先端の人となられるよう期待しております。

御卒業おめでとうございますっ！

元おうみ未来塾担当スタッフ

鷹野 かすみ



成果発表会、お疲れ様でした。「きっちりしてる」と事務局内で評判だった10期生らしく、進行も役割分担もカンベキで、変わったはらへんなあと何だか嬉しくなりました。

発表をお聞きしながら、グループ分けの塾生会で作った「各塾生の興味分野」をまとめた表を思い出していました。ホワイトボードに書いた「農村」「教育」「商店街活性化」等のキーワードに、皆さんが思い思いに名前を書いて（多い人は3つも4つも書いてましたね!）、「エイヤッ」と楕円で括ったあの表です。あの表から始まった4つのグループは、世代も性別も出身もバラバラなメンバーが「この課題に取り組みたい」という思いだけで結びついたグループでした。私がお付き合いできなかったグループ活動の1年間には、各グループ内で様々なご苦勞があったことと思いますが、それらを乗り越えて卒業を迎えられた今、皆さんの間には確かな絆ができたことと思います。また、発表会でコメントされていた塾外の協力者の方々をはじめ、思いを同じくする異なる立場の方々とも、新しい絆を広く強くされてきたことでしょう。

学位も名譽もない未来塾ですが、ここで皆さんが育まれた絆と、そのために知恵を絞り行動された経験は、大きな宝物です。卒業後は、活動を継続される方、自分のフィールドに戻られる方、あるいは新天地に旅立つ方、様々だとお聞きしていますが、この大きな宝物をこれからの「地域プロデューサー」としての歩みに活かして行ってください。鷹野はいつでも応援しています。

2年間、本当にお疲れ様でした。御卒業おめでとうございますっ！

本書表紙について

●タイトルの由来

主題：地域の未来可能性を求めて 副題：Local futurability

私たち未来塾生は、地域の問題・課題に取り組む時表面的に見えている地域の現状だけにとらわれず、地理的、時間的に視野を広げて解決策を考えなければならない。

未来塾では塾生に対し「地域」と「未来」の関係で論じておられたが、日高先生はこれを生物多様性などもっと広い概念で「未来可能性」と称し、折にふれ必要性を説いておられました。

ご逝去なされた先生に敬意を表する意味でも、英語の造語” futurability” も副題に加え、10期生卒塾報告書のタイトルとして決定しました。

●背景写真

研修や発表会等で利用したピアザ淡海から見える風景写真を使っています。

表紙用は北西方面の比叡山付近の山並みとマンション群、中表紙は北東方面の近江富士（三上山）を中心とした近郊の風景、裏表紙は北湖方面と比良山系を望むもので湖面ではセーリングを楽しむ姿が小さく見えます。春霞で輪郭や境界がはっきりしないことや淡い色調が背景に相応しく、見通しがつきにくかった2年目の活動と似通ったところもあり、これらを見るたびに期待と不安で過ごした日々の熱い思いを蘇らせてくれることでしょう。

なお、表紙の編集は松原さん（「仕事人と語ろう！」グループ）が担当されました。

編集後記

2年前、熱い思いで入塾しました。地域をプロデュースすると言うキャッチコピーに惹かれたからです。当時、区長という集落の要の立場にあり、地域の再構築について勉強していたため、願ってもないことでした。そして、この2年間、県内の先進的な活動事例に学び、大きな刺激を受けました。今、活動記録という冊子作りを通して、新たな目標が見えてきたように感じる昨今です。(西山)

成果発表会が終わってほっとしていたら、報告書編集会議が迫ってきて「グループの活動報告」や「2年間のあゆみ」の編集に追われ、やっとできれば、今度は写真探しと最後まで忙しくしてきました。

でもこれも良い思い出です。

事務局の皆さん、色々とありがとうございました。

そして、10期生の皆さん、今後もよろしくお願いします。(北川)

入塾時塾長は日高さんで塾生は26人、卒塾時塾長は北村さんで塾生は21人となった我々10期生。こう見ると大きな変化があった2年間だったように感じます。

本報告書では主に「個人のページ」を担当しましたが、拝読すると「これからもグループ活動を続ける予定」の人が多く、私も同様なので何か励まされるような心強い思いです。

力まず、頑張り過ぎず、「定年後の余暇活動」位の気持ちで取組めたらハッピー!! (佐々木)

“Local Futurability”

地域の未来可能性を求めて

おうみ未来塾第10期生卒塾報告書

発行年月：2010年5月

企画・編集：おうみ未来塾10期生

発行元：淡海ネットワークセンター（財団法人淡海文化振興財団）

〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2F

TEL：077-524-8440 / FAX：077-524-8442

おうみ未来塾

頑張って下さい!!

故日高敏隆 代筆 長子

